



HR2150-HP

HP Valueバーコード スキャナー

プログラミング ガイド

© Copyright 2018 HP Development Company, L.P.

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねますのでご了承ください。

初版：2018年5月

製品番号：L32017-291

製品についての注意事項

このユーザー ガイドでは、ほとんどのモデルに共通の機能について説明します。一部の機能は、お使いのコンピューターでは使用できない場合があります。最新版のユーザー ガイドを確認するには、HPのサポートWebサイト、<https://support.hp.com/jp-ja/> にアクセスし、説明に沿ってお使いの製品を探します。[ユーザー ガイド]を選択します。

ソフトウェア条項

このコンピューターにプリインストールされている任意のソフトウェア製品をインストール、複製、ダウンロード、またはその他の方法で使用することによって、お客様はHP使用許諾契約（EULA）の条件に従うことに同意したものとみなされます。これらのライセンス条件に同意されない場合、未使用の完全な製品（付属品を含むハードウェアおよびソフトウェア）を14日以内に返品し、販売店の返金方針に従って返金を受けてください。

より詳しい情報が必要な場合またはコンピューターの代金の返金を要求する場合は、販売店に問い合わせてください。

目次

序文	1
はじめに	1
章の説明	1
アイコンの説明	2
第1章 お使いになる前に	3
はじめに	3
HR2150-HPの機能	3
開梱	3
HR2150-HPスキャナー	3
データポート	4
HR2150-HPのホストへの接続	5
USBケーブルの使用	6
通信ケーブルの取り外し	7
電源投入、スリープ、電源切断、再起動	7
メンテナンス	8
寸法（単位：mm）	9
左側面図	9
正面図	9
上面図	9
スキャン手順	10
第2章 HPバーコードスキャナーNシリーズの構成ユーティリティ	11
第3章 システム設定	12
はじめに	12
バーコードプログラミング	12
コマンドプログラミング	12
ユーティリティプログラミング	12
プログラミングバーコード/プログラミングコマンド/機能	13
プログラミングコマンドの使用	14
コマンド構文	14
クエリコマンド	14
応答	15
例	15

プログラミング バーコードの使用	16
照明.....	17
照準.....	17
読み取り成功LED.....	18
読み取り成功LEDの持続時間.....	19
電源投入時のビープ音.....	20
読み取り成功ビープ音.....	20
読み取り成功ビープ音の持続時間.....	21
読み取り成功ビープ音の周波数.....	22
読み取り成功ビープ音の音量.....	23
スキャンモード.....	24
デコードセッションタイムアウト.....	25
画像安定化タイムアウト（検知モード）.....	26
デコード間のタイムアウト（同じバーコード）.....	27
画像デコードタイムアウト.....	28
感度.....	29
トリガー コマンド.....	30
[スキャンの開始]コマンドの変更.....	30
[スキャンの停止]コマンドの変更.....	31
バーコードの読み取りオン/オフ.....	31
読み取り領域.....	32
画像のフリップ.....	34
スマート スタンドモード.....	35
異常読み取りメッセージ.....	36
異常読み取りメッセージの設定.....	36
初期設定.....	37
工場出荷時設定.....	37
カスタム初期設定.....	37
製品情報の照会.....	38
製品名の照会.....	38
ファームウェアのバージョンの照会.....	38
デコーダーのバージョンの照会.....	39
データフォーマッターのバージョンの照会.....	39
ハードウェアのバージョンの照会.....	39
製品シリアル番号の照会.....	40
製造日の照会.....	40

OEMシリアル番号の照会.....	40
第4章 USBインターフェイス.....	41
はじめに.....	41
USB HIDキーボード.....	42
USB国別キーボードの種類.....	43
不明な文字でピープ音を鳴らす.....	47
ALT + テンキーのエミュレート.....	48
コードページ.....	49
Unicodeエンコード.....	51
先頭にゼロを埋めてテンキーをエミュレート.....	51
ファンクションキー マッピング.....	52
ASCIIファンクションキーの対応表.....	53
ASCIIファンクションキーの対応表 (続き).....	54
キーストローク間の遅延.....	55
Caps Lock.....	55
大文字/小文字変換.....	56
テンキーのエミュレート.....	57
高速モード.....	59
ポーリングレート.....	60
USB CDC (COM).....	62
HID POS (POS HID/バーコード スキャナー).....	63
はじめに.....	63
プログラムでスキャナーにアクセスする.....	63
スキャンされたデータの取得.....	64
スキャナーへのコマンドの送信.....	64
VID/PID.....	65
第5章 読み取りコード.....	66
はじめに.....	66
グローバル設定.....	66
すべての読み取りコードを有効/無効にする.....	66
1D読み取りコードを有効/無効にする.....	66
2D読み取りコードを有効/無効にする.....	67
郵便読み取りコードを有効/無効にする.....	67
1Dツイン コード.....	68
Code 128.....	69
工場出荷時設定の復元.....	69
Code 128を有効/無効にする.....	69
Code 128の長さ範囲の設定.....	70

EAN-8	71
工場出荷時設定の復元.....	71
EAN-8を有効/無効にする.....	71
チェックキャラクタの送信.....	71
2桁のアドオンコード.....	72
5桁のアドオンコード.....	73
EAN-8をEAN-13に変換する	74
EAN-13.....	75
工場出荷時設定の復元.....	75
EAN-13を有効/無効にする	75
チェックキャラクタの送信.....	76
2桁のアドオンコード.....	76
5桁のアドオンコード.....	77
UPC-E.....	78
工場出荷時設定の復元.....	78
UPC-Eを有効/無効にする	78
チェックキャラクタの送信.....	79
2桁のアドオンコード.....	79
5桁のアドオンコード.....	80
プリアンブル文字の送信	81
UPC-EをUPC-Aに変換する	81
UPC-A.....	82
工場出荷時設定の復元.....	82
UPC-Aを有効/無効にする.....	82
チェックキャラクタの送信.....	82
2桁のアドオンコード.....	83
5桁のアドオンコード.....	84
プリアンブル文字の送信	85
クーポン.....	86
拡張クーポン コード付きUPC-A/EAN-13.....	86
クーポンGS1 Databar出力	87
Interleaved 2 of 5.....	88
工場出荷時設定の復元.....	88
Interleaved 2 of 5を有効/無効にする.....	88
Interleaved 2 of 5の長さ範囲の設定	89
チェックキャラクタの検証.....	90
ITF-14.....	91
工場出荷時設定の復元.....	91

ITF-14を有効/無効にする	91
ITF-6	92
工場出荷時設定の復元.....	92
ITF-6を有効/無効にする.....	92
Matrix 2 of 5.....	93
工場出荷時設定の復元.....	93
Matrix 2 of 5を有効/無効にする.....	93
Matrix 2 of 5の長さ範囲の設定	94
チェックキャラクタの検証.....	95
Code 39.....	96
工場出荷時設定の復元.....	96
Code 39を有効/無効にする	96
Code 39の長さ範囲の設定.....	97
チェックキャラクタの検証.....	98
スタート/ストップキャラクターを送信する	99
Code 39 Full ASCIIを有効/無効にする	99
Code 32（イタリアの医薬コード）を有効/無効にする	100
Code 32のプレフィックス.....	100
Code 32のスタート/ストップキャラクターを送信する	101
Code 32のチェックキャラクタを送信する.....	101
Codabar	102
工場出荷時設定の復元.....	102
Codabarを有効/無効にする	102
Codabarの長さ範囲の設定.....	103
チェックキャラクタの検証.....	104
スタート/ストップキャラクター	105
Code 93	106
工場出荷時設定の復元.....	106
Code 93を有効/無効にする	106
Code 93の長さ範囲の設定.....	107
チェックキャラクタの検証.....	108
China Post 25	109
工場出荷時設定の復元.....	109
China Post 25を有効/無効にする.....	109
China Post 25の長さ範囲の設定	110
チェックキャラクタの検証.....	111
GS1-128（UCC/EAN-128）	112
工場出荷時設定の復元.....	112

GS1-128を有効/無効にする.....	112
GS1-128の長さ範囲の設定.....	113
GS1 Databar (RSS)	114
工場出荷時設定の復元.....	114
GS1 Databarを有効/無効にする.....	114
アプリケーション識別子「01」を送信する.....	115
GS1コンボジット (EAN-UCCコンボジット)	115
工場出荷時設定の復元.....	115
GS1コンボジットを有効/無効にする.....	115
UPC/EANコンボジットを有効/無効にする.....	116
Code 11	116
工場出荷時設定の復元.....	116
Code 11を有効/無効にする.....	116
Code 11の長さ範囲の設定.....	118
チェックキャラクタの検証.....	119
チェックキャラクタの送信.....	120
ISBN.....	121
工場出荷時設定の復元.....	121
ISBNを有効/無効にする.....	121
ISBNフォーマットの設定.....	122
ISSN.....	123
工場出荷時設定の復元.....	123
ISSNを有効/無効にする.....	123
Industrial 25	124
工場出荷時設定の復元.....	124
Industrial 25を有効/無効にする.....	124
Industrial 25の長さ範囲の設定.....	125
チェックキャラクタの検証.....	126
Standard 25.....	127
工場出荷時設定の復元.....	127
Standard 25を有効/無効にする.....	127
Standard 25の長さ範囲の設定.....	128
チェックキャラクタの検証.....	129
Plessey	130
工場出荷時設定の復元.....	130
Plesseyを有効/無効にする.....	130
Plesseyの長さ範囲の設定.....	131
チェックキャラクタの検証.....	132

MSI-Plessey	133
工場出荷時設定の復元.....	133
MSI-Plesseyを有効/無効にする	133
MSI-Plesseyの長さ範囲の設定.....	134
チェックキャラクタの検証.....	135
チェックキャラクタの送信.....	136
AIM 128	137
工場出荷時設定の復元.....	137
AIM 128を有効/無効にする	137
AIM 128の長さ範囲の設定	138
ISBT 128.....	139
工場出荷時設定の復元.....	139
ISBT 128を有効/無効にする.....	139
Code 49	140
工場出荷時設定の復元.....	140
Code 49を有効/無効にする	140
Code 49の長さ範囲の設定.....	141
Code 16K.....	142
工場出荷時設定の復元.....	142
Code 16Kを有効/無効にする.....	142
Code 16Kの長さ範囲の設定	143
PDF417	144
工場出荷時設定の復元.....	144
PDF417を有効/無効にする.....	144
PDF417の長さ範囲の設定	145
PDF417ツイン コード.....	146
PDF417反転.....	147
文字エンコード.....	147
PDF417 ECI出力	148
Micro PDF417.....	149
工場出荷時設定の復元.....	149
Micro PDF417を有効/無効にする	149
Micro PDF417の長さ範囲の設定.....	150
QRコード.....	151
工場出荷時設定の復元.....	151
QRコードを有効/無効にする	151
QRコードの長さ範囲の設定.....	152
QRツイン コード.....	153

QR反転.....	154
文字エンコード.....	154
QR ECI出力.....	155
Micro QRコード.....	156
工場出荷時設定の復元.....	156
Micro QRを有効/無効にする.....	156
Micro QRの長さ範囲の設定.....	157
Aztec.....	158
工場出荷時設定の復元.....	158
Aztecコードを有効/無効にする.....	158
Aztecコードの長さ範囲の設定.....	159
画像の複数バーコードの読み取り.....	160
バーコードの数の設定.....	161
文字エンコード.....	162
Aztec ECI出力.....	162
Data Matrix.....	163
工場出荷時設定の復元.....	163
Data Matrixを有効/無効にする.....	163
Data Matrixの長さ範囲の設定.....	164
Data Matrixツインコード.....	165
長方形のバーコード.....	166
Data Matrix反転.....	166
文字エンコード.....	167
Data Matrix ECI出力.....	167
Maxicode.....	168
工場出荷時設定の復元.....	168
Maxicodeを有効/無効にする.....	168
Maxicodeの長さ範囲の設定.....	169
Chinese Sensible Code.....	170
工場出荷時設定の復元.....	170
Chinese Sensible Codeを有効/無効にする.....	170
Chinese Sensible Codeの長さ範囲の設定.....	171
Chinese Sensibleツインコード.....	172
Chinese Sensible Code反転.....	173
GMコード.....	174
工場出荷時設定の復元.....	174
GMを有効/無効にする.....	174
GMの長さ範囲の設定.....	175

Code One.....	176
工場出荷時設定の復元.....	176
Code Oneを有効/無効にする.....	176
Code Oneの長さ範囲の設定.....	177
USPS Postnet.....	178
工場出荷時設定の復元.....	178
USPS Postnetを有効/無効にする.....	178
チェックキャラクタの送信.....	178
USPS Intelligent Mail.....	179
工場出荷時設定の復元.....	179
USPS Intelligent Mailを有効/無効にする.....	179
Royal Mail.....	180
工場出荷時設定の復元.....	180
Royal Mailを有効/無効にする.....	180
USPS Planet.....	181
工場出荷時設定の復元.....	181
USPS Planetを有効/無効にする.....	181
チェックキャラクタの送信.....	181
KIX Post.....	182
工場出荷時設定の復元.....	182
KIX Postを有効/無効にする.....	182
Australian Postal.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
工場出荷時設定の復元.....	183
Australian Postalを有効/無効にする.....	183
Specific OCR-B.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
工場出荷時設定の復元.....	184
Specific OCR-Bを有効/無効にする.....	184
パスポートOCR.....	185
工場出荷時設定の復元.....	185
パスポートOCRを有効/無効にする.....	185
第6章 データフォーマッター.....	186
はじめに.....	186
データフォーマットの追加.....	186
データフォーマッターを有効/無効にする.....	188
不一致エラーのビープ音.....	189
データフォーマットの選択.....	190
シングルスキャンのためのデータフォーマットの変更.....	191

データフォーマットの消去.....	192
データフォーマットの照会.....	192
フォーマッター コマンド.....	193
送信コマンド.....	193
移動コマンド.....	196
検索コマンド.....	198
その他のコマンド.....	201
第7章 プレフィックスおよびサフィックス.....	207
はじめに.....	207
グローバル設定.....	208
すべてのプレフィックス/サフィックスを有効/無効にする.....	208
プレフィックスの順序.....	208
カスタム プレフィックス.....	209
カスタム プレフィックスを有効/無効にする.....	209
カスタム プレフィックスの設定.....	209
AIM IDプレフィックス.....	210
コードIDプレフィックス.....	211
すべての初期設定コードIDの復元.....	211
コードIDの変更.....	211
カスタム サフィックス.....	220
カスタム サフィックスを有効/無効にする.....	220
カスタム サフィックスの設定.....	220
データパッキング.....	221
はじめに.....	221
データパッキングのオプション.....	221
終了文字サフィックス.....	223
終了文字サフィックスを有効/無効にする.....	223
終了文字サフィックスの設定.....	223
第8章 バッチ プログラミング.....	225
はじめに.....	225
バッチ コマンドの作成.....	226
バッチ バーコードの作成.....	226
バッチ バーコードの使用.....	227
付録.....	228
数字バーコード.....	228
バーコードの保存/キャンセル.....	231

工場出荷時設定表	232
AIM ID表	240
コードID表	242
読み取りコードID番号	244
ASCII表	246
Unicodeキー マップ	250

序文

はじめに

このガイドでは、HR2150-HPバーコード スキャナーのセットアップおよび使用に関する詳細な手順について説明します。

章の説明

- | | |
|---------------------------------|---|
| 第1章 お使いになる前に | : HR2150-HPスキャナーの概要を説明します。 |
| 第2章 HPバーコード スキャナーNシリーズ構成ユーティリティ | : HR2150-HPスキャナーのセットアップおよび新しいアプリケーションの開発に使用できる便利なツールを紹介します。 |
| 第3章 システム設定 | : 3つの設定方法を紹介し、HR2150-HPスキャナーの全般的なパラメーターを設定する方法を説明します。 |
| 第4章 USBインターフェイス | : USB通信のパラメーターを設定する方法を説明します。 |
| 第5章 読み取りコード | : 互換性のあるすべての読み取りコードの一覧を示し、関連するパラメーターを構成する方法を説明します。 |
| 第6章 データフォーマッター | : データフォーマッターを使用してスキャンされたデータをカスタマイズする方法を説明します。 |
| 第7章 プレフィックスおよびサフィックス | : プレフィックスおよびサフィックスを使用してスキャンされたデータをカスタマイズする方法を説明します。 |
| 第8章 バッチプログラミング | : 複雑なプログラミングタスクを単一のバーコードに統合する方法を説明します。 |
| 付録 | : 工場出荷時設定の表を示し、頻繁に使用されるプログラミングバーコードをまとめます。 |

アイコンの説明



このアイコンは、このガイドに関連するものを示します。



このアイコンは、この情報が読者の特別な注意を必要とすることを示します。



このアイコンは、スキャナーを簡単に使用または設定するために役立つ便利なヒントを示します。



このアイコンは、操作を理解するために役立つ実用的な例を示します。

第1章 お使いになる前に

はじめに

HR2150-HPバーコード スキャナーは、画像をキャプチャして1Dまたは2Dバーコードを読み取ります。さまざまなスキャン要件に合わせて、レベルモード、検知モード、連続モード、パルスモードの4つのスキャンモードが提供されます。

この章では、HR2150-HPスキャナーの図解を入れて説明します。手元にHR2150-HPスキャナーがある場合は、それをうまく利用してこのガイドの理解を深めてください。この章は、通常のユーザー、メンテナンス担当者、およびソフトウェア開発者向けに書かれています。

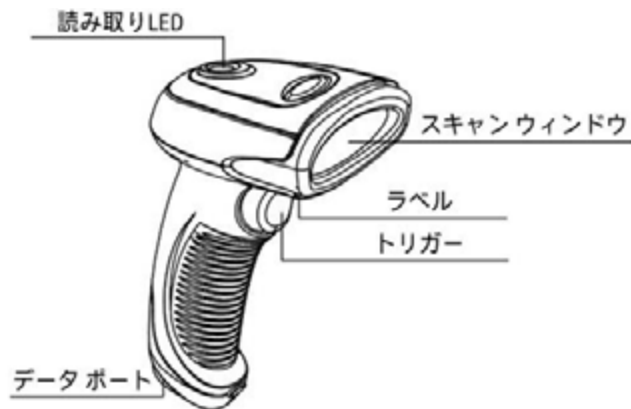
HR2150-HPの機能

- ◇ 包括的なデータキャプチャ：1D、2D、および郵便バーコード。
- ◇ 高速で正確なデコード機能：高性能プロセッサおよびバーコードデコーダーボードを統合します。
- ◇ 設定および更新が簡単です。

開梱

パッケージを開き、HR2150-HPスキャナーおよびオプション製品を取り出します。梱包内容がすべて含まれ、傷が付いていないことを確認してください。梱包内容が破損または不足している場合は、元のパッケージを保管し、アフターサービスについてすぐに販売店に連絡してください。

HR2150-HPスキャナー



読み取りLEDの定義

- 赤色：スキャナーの電源が入っています。
- 緑色：バーコードを正常に読み取りました。

データポート

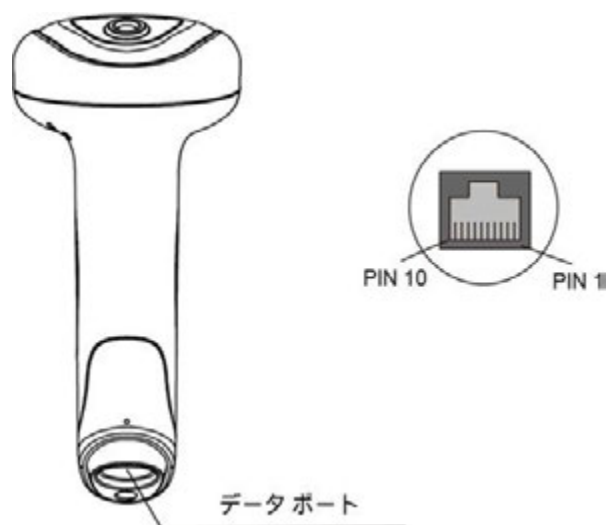


図1-2

PIN	信号	タイプ	機能
1	KB_CLK	I/O	キーボードクロック信号
2	KB_DATA	I/O	キーボードデータ信号
3	VCC	P	電源+ (DC5V)
4	TXD	O	RS-232出力
5	RXD	I	RS-232入力
6	PC_CLK / CTS	I/O	PCクロック信号/送信可
7	PC_DATA / RTS	I/O	PCデータ信号/送信要求
8	GND	P	グラウンド
9	D-	I/O	USB信号
10	D+	I/O	

HR2150-HPのホストへの接続

スキャナーは、通信ケーブル（USBケーブル）を使用して、PC、POS、またはUSBポートを備えたインテリジェント端末など、実際に使用されるホストに接続する必要があります。

USB

ホスト上のUSBポート



USBケーブルの使用

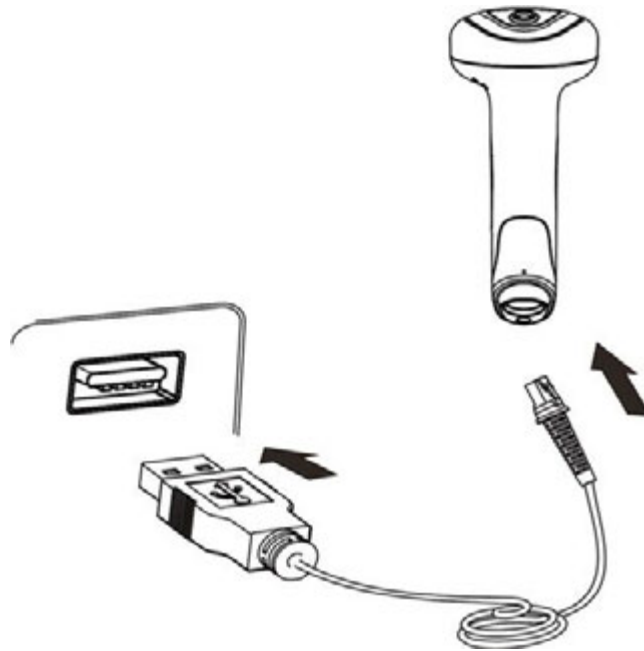


図1-3

以下のように、RJ45コネクタおよびUSBコネクタが付属したUSBケーブルを使用して、スキャナーをホストに接続します。

1. RJ45コネクタをHR2150-HPスキャナーのデータポート（図1-3を参照してください）に接続します。
2. USBコネクタをホストのUSBポートに接続します。

通信ケーブルの取り外し



図1-5

適切な針またはまっすぐにしたクリップ（図1-5）を使用し、以下の手順に沿って操作します。

1. 電源アダプターがある場合は、主電源から取り外します。
2. 針を穴に差し込みます。
3. 針を押し込みながら、スキャナーからゆっくりとケーブルを引き抜きます。
4. 針を取り外します。
5. ホストからケーブルを取り外します。

電源投入、スリープ、電源切断、再起動

スキャナーの電源投入

スキャナーをホストに接続します。スキャナーの電源が入り、自動的にスリープモードに入ります。

スリープモードに入る

しばらくの間デバイスで操作が実行されない場合、デバイスは自動的にスリープ状態に入ります。

スキャナーの電源切断

スキャナーからケーブルを取り外すか、ホストからケーブルを取り外すか、電源アダプターを主電源から取り外します。

スキャナーの再起動

スキャナーが入力に応答しなくなるか、正常に動作しなくなった場合は、スキャナーの電源を切ってから入れ直してください。

メンテナンス

- ◇ スキャンウィンドウは清潔に保ってください。
- ◇ スキャンウィンドウに傷を付けないでください。
- ◇ スキャンウィンドウから汚れを取り除くには、柔らかいブラシを使用します。
- ◇ スキャンウィンドウを清掃するには、メガネクリーニングクロスなどの柔らかい布を使用します。
- ◇ スキャンウィンドウに液体をスプレーしないでください。
- ◇ デバイスの他の部分を清掃するために水以外の洗剤を使用しないでください。



不適切な手入れおよびメンテナンスによって引き起こされた損傷は保証されません。

寸法（单位：mm）

左側面図



図1-6

正面図



図1-7

上面図



図1-8

スキャン手順

スキャナーがレベルスキャンモードの場合は、以下の手順に従ってバーコードをスキャンできます。

1. トリガー（図1-1を参照してください）を押したままにすると、スキャナーは赤色の照準LED光を照射します。
2. 赤色のLED光をバーコードの中心に向けます。
3. 赤色のLED光が消えたらトリガーを解放します。バーコードが正常にデコードされると読み取り成功のピープ音が鳴り、デコードされたデータがホストに送信されます。

注：同じバッチのバーコードの場合、スキャナーは最適なスキャン距離とみなされる特定の距離で非常に高い成功率を維持します。

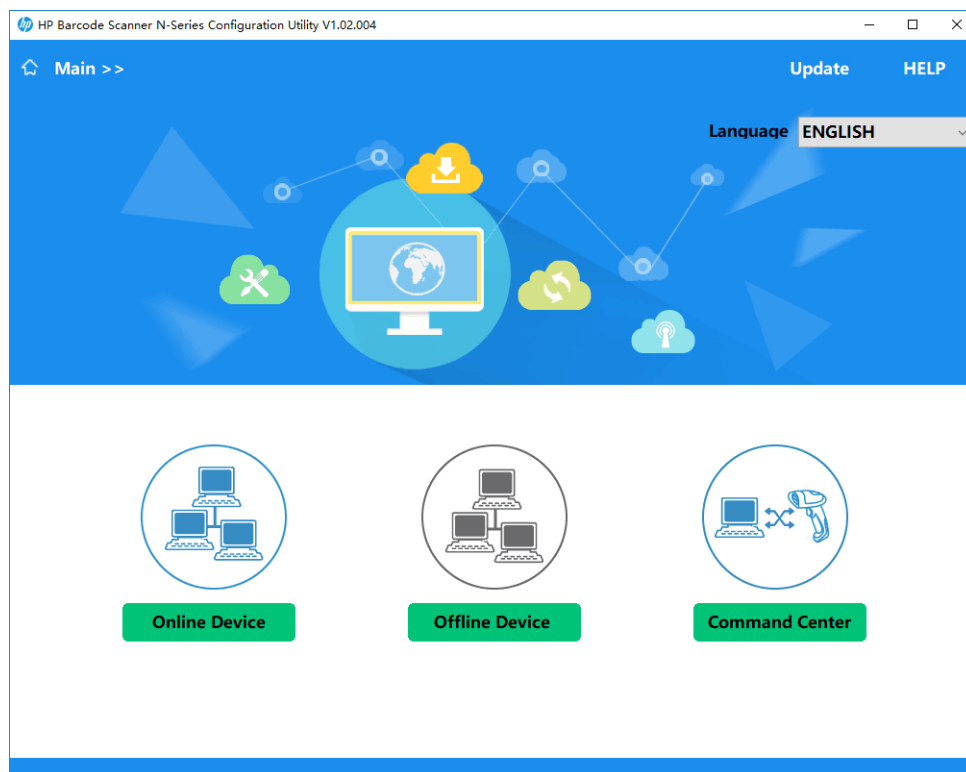


@SETUPE1

セットアップの開始

第2章 HPバーコード スキャナーNシリーズの構成ユーティリティ

HPバーコード スキャナーNシリーズの構成ユーティリティは、デコードされたデータやキャプチャされた画像へのアクセスおよびスキャナーの設定を可能にするWindowsベースの設定ツールです。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

第3章 システム設定

はじめに

スキャナーを設定するには、バーコードプログラミング、コマンドプログラミング、ユーティリティプログラミングの3つの方法があります。

バーコードプログラミング

スキャナーは、プログラミングバーコードをスキャンして設定できます。ユーザーがプログラム可能なすべての機能/オプションについて、以下のセクションでプログラミングバーコード/コマンドとともに説明します。

このプログラミング方法は最も簡単です。ただし、バーコードを手動でスキャンする必要があります。その結果、エラーが発生する可能性が高くなります。

コマンドプログラミング

スキャナーは、ホストデバイスから送信されるシリアルコマンドによって設定することもできます。

ユーザーは、これらのコマンド文字列をスキャナーに送信してデバイス構成を実行するアプリケーションプログラムを設計できます。

ユーティリティプログラミング

上記の2つの方法に加えて、HPバーコードスキャナーNシリーズの構成ユーティリティでもスキャナー設定を簡単に実行できます。

このユーティリティはWindowsベースの設定ツールであり、ユーザーはデコードされたデータやキャプチャされた画像にアクセスしたり、スキャナーを設定したりできます。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

プログラミング バーコード/プログラミング コマンド/機能



上の図は、[セットアップの開始]機能でのプログラミング バーコードおよびコマンドを示した例です。

1. [大/小文字変換なし]バーコード。
2. [大/小文字変換なし]コマンド。
3. 機能/オプションの説明。
4. **は工場出荷時の設定を示します。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

プログラミング コマンドの使用

スキャナーは、バーコード プログラミングの方法に加えて、ホスト デバイスから送信されるシリアル コマンド (16進値) によって設定することもできます。コマンドはすべて大文字で入力する必要があります。

コマンド構文

Prefix StorageType Tag SubTag [Data] [,SubTag [Data]] [,Tag SubTag [Data]] [...] Suffix

Prefix : 「~<SOH>0000」 (16進値 : 7E 01 30 30 30 30)、6文字。

StorageType : 「@」 (16進値 : 40) または 「#」 (16進値 : 23)、1文字。「@」は恒久的な設定を意味し、スキャナーの電源を切ったり再起動したりしても失われません。「#」は一時的な設定を意味し、スキャナーの電源を切るか再起動すると失われます。

Tag : 目的のコマンド グループを識別する、大文字と小文字が区別される3文字のフィールド。たとえば、USB HIDキーボード構成の設定はすべて、KBWというTagで識別されます。

SubTag : Tagのグループ内で目的のパラメーターを識別する、大文字と小文字が区別される3文字のフィールド。たとえば、キーボードレイアウトのSubTagはCTYです。

Data : TagおよびSubTagで識別される機能またはパラメーター設定の値。

Suffix : 「;<ETX>」 (16進値 : 3B 03)、2文字。

1つのPrefix/Suffixシーケンス内で複数のコマンドを発行できます。設定コマンドの場合、シーケンス内の各コマンドで繰り返す必要があるのは、**Tag**、**SubTag**、および**Data**フィールドだけです。同じTagに適用するコマンドを追加する場合は、コマンドをコンマ (,) で区切り、追加のコマンドの**SubTag**フィールドおよび**Data**フィールドのみを発行します。追加のコマンドに別の**Tag**フィールドが必要な場合は、コマンドをセミコロン (;) で前のコマンドから区切ります。

クエリ コマンド

クエリ コマンドの場合、上記の構文の**Data**フィールドは以下のどれかになります。

- * (16進値 : 2A) スキャナーの設定の現在値。
- & (16進値 : 26) 設定の工場出荷時の初期設定値。
- ^ (16進値 : 5E) 設定に指定可能な値の範囲。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

クエリ コマンドのStoreTypeフィールドの値は、「@」（16進値：40）または「#」（16進値：23）です。

SubTagフィールドを省略したクエリ コマンドは、タグに関するすべての設定を照会することを意味します。たとえば、Code 11に関する現在の設定をすべて照会するには、**7E 01 30 30 30 30 40 43 31 31 2A 3B 03**（つまり、

~<SOH>0000@C11*;<ETX>）と入力する必要があります。

応答

コマンドシーケンスとは異なり、応答のプレフィックスは6文字の「<STX><SOH>0000」（16進値：02 01 30 30 30 30）で構成されます。

スキャナーはシリアルコマンドに対して以下の3つの応答を返します。

<ACK>（16進値：06） コマンドが正常に処理されたことを示します。

<NAK>（16進値：15） 設定コマンドは正しいが、Dataフィールドの入力がこのTagとSubTagの組み合わせで使用可能な範囲にならない場合（たとえば、キーストローク間の遅延を100と入力したが、このフィールドには2桁しか入力できないなど）、または無効なクエリ コマンドを示します。

<ENQ>（16進値：05） TagまたはSubTagコマンドが無効であることを示します。

応答時、スキャナーはコマンドの各句読点（コンマまたはセミコロン）の直前に上記のステータス文字を挿入して、コマンド シーケンスをエコーバックします。

例

例1：Code 11を有効にし、最小長および最大長をそれぞれ12および22に設定します。

入力： **7E 01 30 30 30 30 40 43 31 31 45 4E 41 31 2C 4D 49 4E 31 32 2C 4D 41 58 32 32 3B 03**

（~<SOH>0000@C11ENA1,MIN12,MAX22;<ETX>）

応答： **02 01 30 30 30 30 40 43 31 31 45 4E 41 31 06 2C 4D 49 4E 31 32 06 2C 4D 41 58 32 32 06 3B 03**

（<STX><SOH>0000@C11ENA1<ACK>,MIN12<ACK>,MAX22<ACK>;<ETX>）

例2：Code 11の現在の最小長および最大長を照会します。

入力： **7E 01 30 30 30 30 40 43 31 31 4D 49 4E 2A 2C 4D 41 58 2A 3B 03**

（~<SOH>0000@C11MIN*,MAX*;<ETX>）

応答： **02 01 30 30 30 30 40 43 31 31 4D 49 4E 31 32 06 2C 4D 41 58 32 32 06 3B 03**

（<STX><SOH>0000@C11MIN12<ACK>,MAX22<ACK>;<ETX>）



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

プログラミング バーコードの使用

[セットアップの開始]バーコードをスキャンすると、スキャナーをセットアップ モードに移行できます。その後、いくつかのプログラミング バーコードをスキャンしてスキャナーを設定できます。セットアップ モードを終了するには、[セットアップの終了]バーコードまたはプログラミングバーコード以外をスキャンするか、スキャナーを再起動します。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

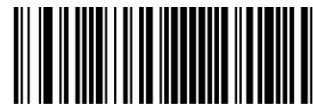
セットアップの開始

プログラミング バーコード データ (プログラミング バーコードの下の文字) をホスト デバイスに送信できます。以下の適切なバーコードをスキャンして、ホスト デバイスへのプログラミングバーコードデータの送信を有効または無効にします。



@SETUPT0

** プログラミングバーコードデータを
送信しない



@SETUPT1

プログラミングバーコードデータを
送信する



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

照明



@ILLSCN1

** オン



@ILLSCN0

オフ

照準



@AMLENA1

** オン



@AMLENA0

オフ



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

読み取り成功LED

緑色のLEDは、読み取り成功を示すためにオンまたはオフにプログラムできます。



@GRLENA1

** オン



@GRLENA0

オフ



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

読み取り成功LEDの持続時間

このパラメーターは、読み取りの成功後に読み取り成功を示すLEDがオンのままになる時間を設定します。この時間は、1~2,500ミリ秒の範囲を1ミリ秒単位でプログラムできます。



@GRLDUR20

**短 (20ミリ秒)



@GRLDUR120

中 (120ミリ秒)



@GRLDUR220

長 (220ミリ秒)



@GRLDUR320

長時間 (320ミリ秒)



@GRLDUR

カスタム (1~2,500ミリ秒)

E
example

読み取り成功LEDの持続時間を800ミリ秒に設定します。

1. [セットアップの開始]バーコードをスキャンします。
2. [カスタム]バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]バーコードをスキャンします。
5. [セットアップの終了]バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了

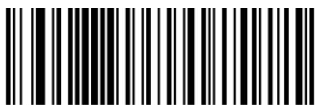


@SETUPE1

セットアップの開始

電源投入時のビープ音

スキャナーは電源投入時にビープ音を鳴らすようにプログラムできます。電源投入ビープ音が不要な場合は、**[オフ]**バーコードをスキャンします。



@PWBENA1

** オン



@PWBENA0

オフ

読み取り成功ビープ音

[オフ]バーコードをスキャンすると、読み取り成功を示すビープ音をオフにできます。**[オン]**バーコードをスキャンすると、再びオンになります。



@GRBENA1

** オン



@GRBENA0

オフ



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

読み取り成功ビープ音の持続時間

このパラメーターは、読み取りが成功したときにスキャナーが鳴らすビープ音の長さを設定します。この時間は、20～300ミリ秒の範囲を1ミリ秒単位でプログラムできます。



@GRBDUR40

短 (40ミリ秒)



@GRBDUR80

** 中 (80ミリ秒)



@GRBDUR120

長 (120ミリ秒)



@GRBDUR

カスタム (20～300ミリ秒)

Example

読み取り成功ビープ音の持続時間を200ミリ秒に設定します。

1. [セットアップの開始]バーコードをスキャンします。
2. [カスタム]バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「2」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]バーコードをスキャンします。
5. [セットアップの終了]バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

読み取り成功ビープ音の周波数

このパラメーターは、20～20,000 Hzの範囲を1 Hz単位でプログラムできます。



@GRBFRQ800

超低 (800 Hz)



@GRBFRQ1600

低 (1600 Hz)



@GRBFRQ2730

** 中 (2730 Hz)



@GRBFRQ4200

高 (4200 Hz)



@GRBFRQ

カスタム (20～20,000 Hz)

Example

読み取り成功ビープ音の周波数を2,000 Hzに設定します。

1. [セットアップの開始]バーコードをスキャンします。
2. [カスタム]バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「2」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]バーコードをスキャンします。
5. [セットアップの終了]バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

読み取り成功ビープ音の音量



@GRBVOL0

** 大音量



@GRBVOL1

中



@GRBVOL2

小



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

スキャンモード

- ◇ **レベルモード**：トリガーを引くとデコードセッションがアクティブになります。デコードセッションは、バーコードが読み取られるか、トリガーを解放するまで続きます。
- ◇ **検知モード**：スキャナーは、提示されたバーコードを検出するたびにデコードセッションをアクティブにします。デコードセッションは、バーコードが読み取られるか、デコードセッションタイムアウトが時間切れになるまで続きます。[デコード間のタイムアウト（同じバーコード）]を使用すると、一定期間内に同じバーコードを意図しないで再読み取りすることを回避できます。[感度]を使用すると、キャプチャされた画像の変化に対する検知モードの感度を変更できます。[画像安定化タイムアウト]は、バーコードをデコードして別のバーコードを「探し」た後、スキャナーが周囲環境に適応する時間を与えます。
- ◇ **連続モード**：スキャナーはデコードセッションを次々に自動的に開始します。バーコードの読み取りを一時停止/再開するには、トリガーを押すだけです。[デコード間のタイムアウト（同じバーコード）]を使用すると、一定期間内に同じバーコードを意図しないで再読み取りすることを回避できます。
- ◇ **パルスモード**：トリガーを押してから解放すると、バーコードが読み取られるか、デコードセッションタイムアウトが時間切れになるまでスキャンがアクティブになります（デコードセッションタイムアウトはトリガーを解放すると開始されます）。



@SCNMOD0

** レベルモード



@SCNMOD2

検知モード



@SCNMOD3

連続モード



@SCNMOD4

パルスモード



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

デコードセッションタイムアウト

このパラメーターは、スキャン試行中にデコードセッションが続く最大時間を設定します。この時間は、1~3,600,000ミリ秒の範囲を1ミリ秒単位でプログラムできます。0に設定すると、タイムアウトは無限になります。初期設定は3,000ミリ秒です。



@ORTSET

デコードセッションタイムアウト

E
example

デコードセッションタイムアウトを1,500ミリ秒に設定します。

1. [セットアップの開始]バーコードをスキャンします。
2. [デコードセッションタイムアウト]バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「5」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]バーコードをスキャンします。
5. [セットアップの終了]バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

画像安定化タイムアウト（検知モード）

このパラメーターは、バーコードをデコードして別のバーコードを「探し」た後、スキャナーが周囲環境への適応に費やす時間を定義します。この時間は、0～3,000ミリ秒の範囲を1ミリ秒単位でプログラムできます。初期設定は200ミリ秒です。



@SENIST

画像安定化タイムアウト

E
example

画像安定化タイムアウトを800ミリ秒に設定します。

1. [セットアップの開始]バーコードをスキャンします。
2. [画像安定化タイムアウト]バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]バーコードをスキャンします。
5. [セットアップの終了]バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

デコード間のタイムアウト（同じバーコード）

[デコード間のタイムアウト（同じバーコード）]を使用すると、一定期間内に同じバーコードを意図しないで再読み取りすることを回避できます。この機能は検知モードおよび連続モードにのみ適用できます。

[デコード間のタイムアウト（同じバーコード）]を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードをスキャンします。

[デコード間のタイムアウト（同じバーコード）を有効にする]: デコード間のタイムアウト（同じバーコード）の時間切れまで、スキャナーが同じバーコードを再読み取りできないようにします。

[デコード間のタイムアウト（同じバーコード）を無効にする]: スキャナーが同じバーコードを再読み取りできるようにします。



@RRDENA1

デコード間のタイムアウト（同じバーコード）を有効にする



@RRDENA0

** デコード間のタイムアウト（同じバーコード）を無効にする

以下のパラメーターは、同じバーコードのデコード間のタイムアウトを設定します。この時間は、1~3,600,000ミリ秒の範囲を1ミリ秒単位でプログラムできます。3,000を超える値に設定されている場合、同じプログラミングバーコードの再読み取りのタイムアウトは3,000ミリ秒に制限されます。初期設定は1,500ミリ秒です。



@RRDDUR

デコード間のタイムアウト（同じバーコード）

E
xample

デコード間のタイムアウト（同じバーコード）を1,000ミリ秒に設定します。

1. [セットアップの開始]/バーコードをスキャンします。
2. [デコード間のタイムアウト（同じバーコード）]/バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]/バーコードをスキャンします。
5. [セットアップの終了]/バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

画像デコードタイムアウト

画像デコード タイムアウトは、スキャナーが画像のデコードに費やす最大時間を指定します。このパラメーターは、1~3,000ミリ秒の範囲を1ミリ秒単位でプログラムできます。初期設定のタイムアウトは500ミリ秒です。



@DETSET

画像デコードタイムアウト

E
example

画像デコードタイムアウトを1,000ミリ秒に設定します。

1. [セットアップの開始]バーコードをスキャンします。
2. [画像デコードタイムアウト]バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]バーコードをスキャンします。
5. [セットアップの終了]バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

感度

感度は、キャプチャされた画像の変化に対するスキャナーの応答の鋭さの度合いを指定します。感度が高いほど、スキャナーをトリガーするための画像の変化の要件は低くなります。アプリケーション環境に適合する適切な感度を選択できます。この機能は検知モードにのみ適用できます。



@SENLVL14

低感度



@SENLVL11

** 中感度



@SENLVL8

高感度



@SENLVL5

拡張感度



@SENLVL

カスタム感度 (レベル1~20)

E
example

感度をレベル10に設定します。

1. [セットアップの開始]/バーコードをスキャンします。
2. [カスタム感度]/バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]/バーコードをスキャンします。
5. [セットアップの終了]/バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

トリガー コマンド

[トリガー コマンドを有効にする]が選択されている場合、レベル モードのスカナーをシリアルトリガー コマンドで有効化および無効化できます。レベル モードのスカナーに[スキャンの開始]コマンド（初期設定：<SOH> T <EOT>、ユーザーがプログラム可能）を送信すると、デコード セッションがアクティブになります。デコード セッションは、バーコードが読み取られるか、デコード セッション タイムアウトが時間切れになるか、スカナーが[スキャンの停止]コマンド（初期設定：<SOH> P <EOT>、ユーザーがプログラム可能）を受信するまで続きます。



@SCNTCE0
**トリガー コマンドを無効にする



@SCNTCE1
トリガー コマンドを有効にする

[スキャンの開始]コマンドの変更

[スキャンの開始]コマンドは1~10文字で構成できます（0x01~0xFFの16進値）。このコマンドでは、文字「?」（16進値：0x3F）を最初の文字にすることはできません。初期設定の[スキャンの開始]コマンドは<SOH> T <EOT>です。



@SCNTCT
[スキャンの開始]コマンドの変更

E
xample

[スキャンの開始]コマンドを「*T」に設定します。

1. [セットアップの開始]バーコードをスキャンします。
2. [スキャンの開始]コマンドの変更]バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「2」、「A」、「5」、「4」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]バーコードをスキャンします。
5. [セットアップの終了]バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

[スキヤンの停止]コマンドの変更

[スキヤンの停止]コマンドは1~10文字で構成できます(0x01~0xFFの16進値)。このコマンドでは、文字「?」(16進値: 0x3F)を最初の文字にすることはできません。初期設定の[スキヤンの停止]コマンドは<SOH>P<EOT>です。



@SCNTCP

[スキヤンの停止]コマンドの変更

E
example

[スキヤンの停止]コマンドを「*P」に設定します。

1. [セットアップの開始]バーコードをスキャンします。
2. [スキヤンの停止]コマンドの変更]バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「2」、「A」、「5」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]バーコードをスキャンします。
5. [セットアップの終了]バーコードをスキャンします。

バーコードの読み取りオン/オフ

スキャナーに[バーコードの読み取りオフ]コマンド~<SOH>0000#SCNENA0;<ETX>を送信すると、バーコードの読み取りを無効にできます。スキャナーは、[バーコードの読み取りオン]コマンド~<SOH>0000#SCNENA1;<ETX>を送信するか、電源を入れ直さない限りバーコードをスキャンできません。初期設定では、バーコードの読み取りはオンです。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

読み取り領域

[領域全体の読み取り]: スキャナーは、照射領域内のバーコードを中央から周辺に向かってデコードしようとし、最初にデコードされたバーコードを送信します。

[特定領域の読み取り]: スキャナーは、指定された読み取り領域内のバーコードを読み取ろうとし、最初にデコードされたバーコードを送信します。このオプションを使用すると、スキャナーの照射領域を狭くして、ユーザーが意図したバーコードのみを読み取ることができます。たとえば、複数のバーコードが近接して配置されている場合、適切な読み取り領域を事前に定義して特定領域の読み取りを行うことで、目的のバーコードのみが読み取られることが保証されます。



@CADENA0

** 領域全体の読み取り



@CADENA1

特定領域の読み取り

[特定領域の読み取り]が有効になっている場合、スキャナーは事前定義された読み取り領域と一致するバーコードのみを読み取ります。初期設定の読み取り領域は、スキャナーの照射領域の上部40%、下部60%、左側40%、および右側60%の領域です。

読み取り領域を定義するには、**[読み取り領域の上部]**、**[読み取り領域の下部]**、**[読み取り領域の左側]**、**[読み取り領域の右側]**の各バーコード、および目的の割合（0～100）を表す数字バーコードを使用します。下部の値は上部の値より大きくなければなりません。右側の値は左側の値よりも大きくなければなりません。



@CADTOP

読み取り領域の上部



@CADBOT

読み取り領域の下部



@CADLEF

読み取り領域の左側



@CADRIG

読み取り領域の右側



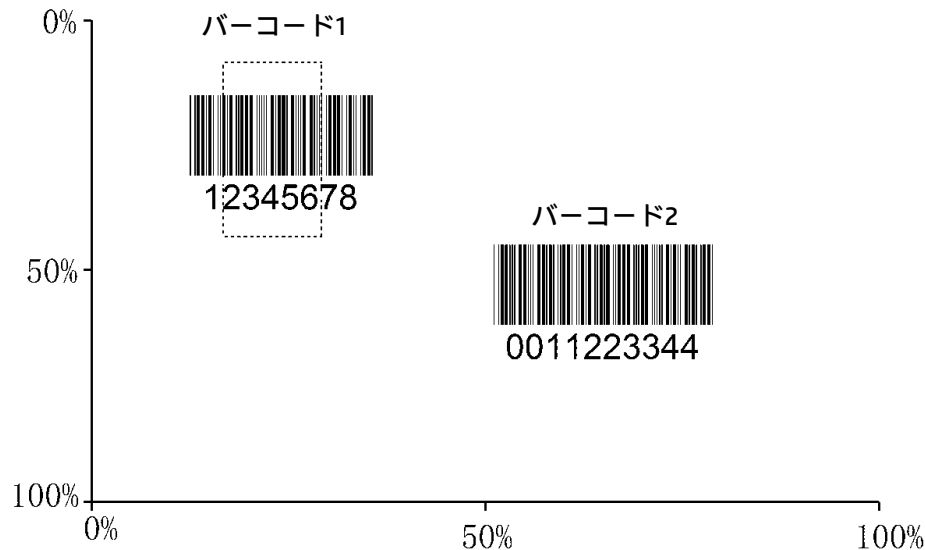
@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



E
example

読み取り領域を上部10%、下部45%、左側15%、右側30%に設定して、上の図のバーコード1のみを読み取るようにスキャナーをプログラムします。

1. [セットアップの開始]/バーコードをスキャンします。
2. [読み取り領域の上部]/バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]/バーコードをスキャンします。
5. [読み取り領域の下部]/バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「4」、「5」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]/バーコードをスキャンします。
8. [読み取り領域の上部]/バーコードをスキャンします。
9. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「0」をスキャンします。
10. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]/バーコードをスキャンします。
11. [読み取り領域の左側]/バーコードをスキャンします。
12. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「0」をスキャンします。
13. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]/バーコードをスキャンします。
14. [読み取り領域の右側]/バーコードをスキャンします。
15. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「3」、「0」をスキャンします。
16. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]/バーコードをスキャンします。
17. [読み取り領域の左側]/バーコードをスキャンします。
18. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「5」をスキャンします。
19. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]/バーコードをスキャンします。
20. [セットアップの終了]/バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

画像のフリップ



@MIRROR0

**フリップしない



@MIRROR1

水平方向にフリップ



@MIRROR2

上下にフリップ



@MIRROR3

水平方向および上下にフリップ

フリップしない画像の例



水平方向にフリップした画像の例



上下にフリップした画像の例



水平方向および上下にフリップした画像の例



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

スマート スタンドモード

この機能をオンにすると、スキャナーはスタンドに挿入されると現在のスキャン モードから検知モードに切り替わり、スタンドから取り外されると以前のスキャン モードで動作します。



@SMTENA0

オフ



@SMTENA1

** オン



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

異常読み取りメッセージ

トリガーを解放するかデコード セッション タイムアウトが時間切れになる、またはスキャナーが[スキャンの停止]コマンドを受信する前に適切な読み取りが行われなかった場合に、異常読み取りメッセージ（ユーザーがプログラム可能）を送信するかどうかを選択するには、以下の適切なバーコードをスキャンします（詳しくは、この章の「シリアルトリガー コマンド」セクションを参照してください）。



@NGRENA0
** 異常読み取りメッセージオフ



@NGRENA1
異常読み取りメッセージオン

異常読み取りメッセージの設定

異常読み取りメッセージには、最大7文字（0x00～0xFFの16進値）を含めることができます。異常読み取りメッセージを設定するには、[異常読み取りメッセージの設定]バーコード、目的の文字の16進値を表す数字バーコード、[保存]バーコードの順にスキャンします。初期設定は「NG」です。



@NGRSET
異常読み取りメッセージの設定

E
example

異常読み取りメッセージを「F」（16進値：0x46）に設定します。

1. [セットアップの開始]バーコードをスキャンします。
2. [異常読み取りメッセージの設定]バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「4」、「6」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]バーコードをスキャンします。
5. [セットアップの終了]バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

初期設定

工場出荷時設定

以下のバーコードをスキャンすると、スキャナーを工場出荷時設定に戻すことができます。以下の場合には、すべてのパラメーターを工場出荷時設定にリセットする必要があります。

1. スキャナーが適切に設定されておらず、バーコードの読み取りに失敗する場合。
2. 以前の設定を忘れ、その影響を避けたい場合。



@FACDEF

すべての工場出荷時設定の復元

カスタム初期設定

[すべてのカスタム初期設定の復元]バーコードをスキャンすると、すべてのパラメーターをカスタム初期設定にリセットできます。

[カスタム初期設定として保存]バーコードをスキャンすると、現在の設定をカスタム初期設定として設定できます。

カスタム初期設定は非揮発性メモリに保存されます。



@CUSSAV

カスタム初期設定として保存



@CUSDEF

すべてのカスタム初期設定の復元



スキャナーを工場出荷時設定に復元しても、カスタム初期設定はスキャナーから削除されません。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

製品情報の照会

以下のバーコードをスキャンすると、製品情報（製品名、ファームウェアのバージョン、デコーダーのバージョン、ハードウェアのバージョン、製品シリアル番号、OEMシリアル番号、製造日など）がホスト デバイスに送信されます。



@QRYSYS

製品情報の照会

製品名の照会



@QRYPDN

製品名の照会

ファームウェアのバージョンの照会



@QRYFWW

ファームウェアのバージョンの照会



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

デコーダーのバージョンの照会



@QRYDCV

デコーダーのバージョンの照会

データフォーマッターのバージョンの照会



@QRYDFM

データフォーマッターのバージョンの照会

ハードウェアのバージョンの照会



@QRYHWW

ハードウェアのバージョンの照会



@SETUPE0

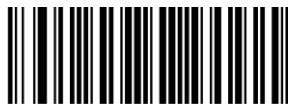
**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

製品シリアル番号の照会



@QRYP SN

製品シリアル番号の照会

製造日の照会



@QRYDAT

製造日の照会

OEMシリアル番号の照会



@QRYESN

OEMシリアル番号の照会



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

第4章 USBインターフェイス

はじめに

USB接続には以下の3つの方法があります。

- ◇ USB HIDキーボード：スキャナーの送信は、コマンド構成やドライバーを必要としないUSBキーボード入力としてシミュレートされます。バーコードデータは仮想キーボードから直接入力でき、ホストデバイスがデータを受信する場合にも便利です。
- ◇ USB CDC (COM)：USB-IFで定義されている標準のUSB CDC (COM) クラス仕様に準拠しており、ホスト デバイスはシリアルポートと同じ方法でデータを受信できます。この機能を使用する場合、ドライバーが必要です。
- ◇ HID POS (POS HIDバーコード スキャナー)：HIDインターフェイスに基づいており、カスタム ドライバーは不要です。伝送速度は仮想キーボードおよび従来のRS-232インターフェイスより優れています。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

USB HIDキーボード

スキャナーがホスト デバイスのUSBポートに接続されている場合、以下のバーコードをスキャンしてUSB HIDキーボード機能を有効にできます。その結果、スキャナーの送信がUSBキーボード入力としてシミュレートされます。ホストは仮想キーボードのキーストロークを受信します。プラグアンドプレイで動作し、ドライバーは不要です。



@INTERF3

** USB HIDキーボード



ホスト デバイスでキーボード入力が許可されている場合、HIDキーボード入りに追加のソフトウェアは必要ありません。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

USB国別キーボードの種類

キーボードレイアウトは国または地域によって異なります。初期設定はUSキーボードです。



@KBWCTY0

** 米国 (英語)



@KBWCTY1

ベルギー



@KBWCTY2

ブラジル



@KBWCTY3

カナダ (フランス語)



@KBWCTY4

チェコ



@KBWCTY5

デンマーク



@KBWCTY6

フィンランド (スウェーデン語)



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@KBWCTY8

ドイツ/オーストリア



@KBWCTY10

ハンガリー



@KBWCTY12

イタリア



@KBWCTY14

オランダ (オランダ語)



@KBWCTY7

フランス



@KBWCTY9

ギリシャ



@KBWCTY11

イスラエル (ヘブライ語)



@KBWCTY13

ラテンアメリカ



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@KBWCTY16

ポーランド



@KBWCTY15

ノルウェー



@KBWCTY18

ルーマニア



@KBWCTY17

ポルトガル



@KBWCTY21

スロバキア



@KBWCTY19

ロシア



@KBWCTY23

スウェーデン



@KBWCTY22

スペイン



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@KBWCTY25

トルコF



@KBWCTY27

UK



@KBWCTY32

ブルガリア (キリル)



@KBWCTY34

セルビア (キリル)



@KBWCTY24

スイス (ドイツ語)



@KBWCTY26

トルコQ



@KBWCTY28

日本



@KBWCTY33

ブルガリア (ラテン)



@KBWCTY35

セルビア (ラテン)



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

不明な文字でビープ音を鳴らす

キーボードレイアウトの違いにより、選択したキーボードではバーコードデータに含まれる文字の一部が使用できない場合があります。その結果、スキャナーは不明な文字の送信に失敗します。

以下の適切なバーコードをスキャンして、不明な文字が検出されたときのビープ音を有効または無効にします。



@KBWBUC0

** 不明な文字でビープ音を鳴らさない



@KBWBUC1

不明な文字でビープ音を鳴らす



フランス語キーボードが選択され、バーコードデータ「ADF」が処理されるとします。キーボードは「D」(0xD0)文字を特定できず、スキャナーはその文字を無視し、次の文字の処理を続行します。

[不明な文字でビープ音を鳴らさない]: スキャナーはビープ音を鳴らさず、ホストは「AF」を受信します。

[不明な文字でビープ音を鳴らす]: スキャナーはビープ音を鳴らしますが、ホストは「AF」を受信します。



[ALT + テンキーのエミュレートオン]が選択されている場合、[不明な文字でビープ音を鳴らす]は機能しません。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

ALT + テンキーのエミュレート

[ALT + テンキーのエミュレート]がオンになっている場合、どのキーボードの種類が選択されていても、ASCII値が0x20以上のすべての文字がテンキーを介して送信されます。

1. ALT Make
2. テンキーで目的の文字に対応する番号を入力します。
3. ALT Break

[ALT + テンキーのエミュレート オン]を選択した後、バーコードの作成に使われたコード ページを選択し、アプリケーション ソフトウェアで使用されるエンコードに応じて[Unicodeエンコード]のオン/オフを切り替える必要があります。



@KBWALT0
** ALT + テンキーのエミュレート オフ



@KBWALT1
ALT + テンキーのエミュレート オン



1文字の送信に複数のキーストローク エミュレーションが必要になるため、この方法は効率的ではありません。



[ALT + テンキーのエミュレート]はオン、[Unicodeエンコード]はオフ、[コード ページ1252 (西ヨーロッパ ラテン)]を選択、[先頭のゼロ]はオフになっているとします。バーコード データ「ADF」(65/208/70) は以下のように送信されます。

- 「A」: 「ALT Make」 + 「065」 + 「ALT Break」
- 「D」: 「ALT Make」 + 「208」 + 「ALT Break」
- 「F」: 「ALT Make」 + 「070」 + 「ALT Break」



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

コードページ

コード ページは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが適切な文字で表示されない場合、スキャンされたバーコードは、ホスト プログラムが想定しているものとは異なるコード ページを使用して作成された可能性があります。その場合は、以下の適切なバーコードをスキャンして、バーコードの作成に使われたコード ページを選択します。PDF417、QRコード、Aztec、およびData Matrixの場合は、コード ページの設定に加えて、第6章の「文字エンコード」セクションで文字エンコードを設定する必要もあります。この機能は、[ALT + テンキーのエミュレート]がオンになっている場合にのみ有効です。



@KBWCPG0

** コードページ1252 (西ヨーロッパラテン)



@KBWCPG2

コードページ1250
(中央および東ヨーロッパラテン)



@KBWCPG4

コードページ1254 (トルコ語)



@KBWCPG1

コードページ1251 (キリル語)



@KBWCPG3

コードページ1253 (ギリシャ語)



@KBWCPG5

コードページ1255 (ヘブライ語)



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@KBWCPG6

コードページ1256 (アラビア語)



@KBWCPG8

コードページ1258 (ベトナム語)



@KBWCPG10

コードページ950 (繁体字中国語、Big5)



@KBWCPG12

コードページ932 (日本語、シフトJIS)



@KBWCPG7

コードページ1257 (バルト語)



@KBWCPG9

コードページ936 (簡体字中国語、GB2312、GBK)



@KBWCPG11

コードページ874 (タイ語)



@KBWCPG13

コードページ949 (韓国語、統一ハングルコード)



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Unicodeエンコード

各種ホスト プログラムは、受信したバーコード データの処理に異なる文字エンコードを使用する場合があります。たとえば、Microsoft Office WordはUnicodeエンコードを使用するため、**[Unicodeエンコード]**をオンにする必要がありますが、Microsoft Office Excelまたはメモ帳はコード ページ エンコードを使用するため、**[Unicodeエンコード]**をオフにする必要があります。この機能は、**[ALT + テンキーのエミュレート]**がオンになっている場合にのみ有効です。



@KBWCPU0

** オフ



@KBWCPU1

オン

先頭にゼロを埋めてテンキーをエミュレート

この機能をオンにすると、テンキーを介して送信される文字シーケンスを、先頭にゼロが付いたISO文字として送信できます。たとえば、ASCIIのAの文字は「ALT MAKE」0065「ALT BREAK」として送信されます。この機能は、**[ALT + テンキーのエミュレート]**がオンになっている場合にのみ有効です。



@KBWALZ1

** オン



@KBWALZ0

オフ



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

ファンクションキー マッピング

[Ctrl + ASCIIモード]を選択すると、ファンクション文字 (0x00 ~ 0x1F) はASCIIシーケンスとして送信されます。



@KBWFKM0

** 無効



@KBWFKM1

Ctrl + ASCIIモード



@KBWFKM2

Alt + テンキー モード

Example

[Ctrl + ASCIIモード]が選択され、USB HIDキーボードの他のパラメーターは工場出荷時設定である場合、バーコードデータ「A<HT> (水平タブ) F」(0x41/0x09/0x46) は以下のように送信されます。

「A」: キーストローク 「A」

<HT> : 「Ctrl Make」 + キーストローク 「I」 + 「Ctrl Break」

「F」: キーストローク 「F」

一部のテキスト エディターでは、「Ctrl I」は斜体変換を意味します。そのため、出力は「AF」となる場合があります。

[Alt + テンキー モード]が選択され、USB HIDキーボードの他のパラメーターは工場出荷時設定である場合、上記のデータは以下のように送信されます。

「A」: キーストローク 「A」

<HT> : 「Alt Make」 + キーストローク 「009」 + 「Alt Break」

「F」: キーストローク 「F」



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

ASCIIファンクション キーの対応表

ASCIIファンクション	ASCII値 (16進値)	ファンクションキー マッピング無効	Ctrl + ASCII
NUL	00	NULL	[Ctrl] + [0]
SOH	01	キーパッドのEnter	[Ctrl] + [A]
STX	02	Caps Lock	[Ctrl] + [B]
ETX	03	ALT	[Ctrl] + [C]
EOT	04	NULL	[Ctrl] + [D]
ENQ	05	CTRL	[Ctrl] + [E]
ACK	06	NULL	[Ctrl] + [F]
BEL	07	Enter	[Ctrl] + [G]
BS	08	左向き矢印	[Ctrl] + [H]
HT	09	水平タブ	[Ctrl] + [I]
LF	0A	下向き矢印	[Ctrl] + [J]
VT	0B	垂直タブ	[Ctrl] + [K]
FF	0C	Delete	[Ctrl] + [L]
CR	0D	Enter	[Ctrl] + [M]
SO	0E	Insert	[Ctrl] + [N]
SI	0F	Esc	[Ctrl] + [O]
DLE	10	F11	[Ctrl] + [P]
DC1	11	Home	[Ctrl] + [Q]
DC2	12	Print Screen	[Ctrl] + [R]
DC3	13	BackSpace	[Ctrl] + [S]
DC4	14	Tab + Shift	[Ctrl] + [T]
NAK	15	F12	[Ctrl] + [U]
SYN	16	F1	[Ctrl] + [V]
ETB	17	F2	[Ctrl] + [W]
CAN	18	F3	[Ctrl] + [X]
EM	19	F4	[Ctrl] + [Y]
SUB	1A	F5	[Ctrl] + [Z]
ESC	11	F6	[Ctrl] + [[]
FS	1C	F7	[Ctrl] + [\]
GS	1D	F8	[Ctrl] + []]
RS	1E	F9	[Ctrl] + [6]
US	1F	F10	[Ctrl] + [-]



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

ASCIIファンクションキーの対応表 (続き)

上の表の最後の5文字 (0x1B~0x1F) は、USキーボードレイアウトのみに適用されます。以下の表に、他の国または地域でこれらの5文字に相当するものを示します。

国または地域	Ctrl + ASCII					
米国	[Ctrl] + [F1]	[Ctrl] + [F2]	[Ctrl] + [F3]	[Ctrl] + [F4]	[Ctrl] + [F5]	[Ctrl] + [F6]
ベルギー	[Ctrl] + [F1]	[Ctrl] + [F2]	[Ctrl] + [F3]	[Ctrl] + [F4]	[Ctrl] + [F5]	[Ctrl] + [F6]
スκανジナピア	[Ctrl] + [+8]	[Ctrl] + [+9]	[Ctrl] + [+0]	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [-]	
フランス	[Ctrl] + [^]	[Ctrl] + [+8]	[Ctrl] + [\$]	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [=]	
ドイツ		[Ctrl] + [Ã]	[Ctrl] + [+]	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [-]	
イタリア		[Ctrl] + [N]	[Ctrl] + [+]	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [-]	
スイス		[Ctrl] + [<]	[Ctrl] + [.]	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [-]	
英国	[Ctrl] + [F1]	[Ctrl] + [F2]	[Ctrl] + [F3]	[Ctrl] + [F4]	[Ctrl] + [F5]	[Ctrl] + [F6]
デンマーク	[Ctrl] + [+8]	[Ctrl] + [N]	[Ctrl] + [+9]	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [-]	
ノルウェー	[Ctrl] + [+8]	[Ctrl] + [N]	[Ctrl] + [+9]	[Ctrl] + [6]	[Ctrl] + [-]	
スペイン	[Ctrl] + [F1]	[Ctrl] + [F2]	[Ctrl] + [F3]	[Ctrl] + [F4]	[Ctrl] + [F5]	[Ctrl] + [F6]



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

キーストローク間の遅延

このパラメーターは、エミュレートされたキーストローク間の遅延を指定します。



@KBWDLY0

** 遅延なし



@KBWDLY40

長い遅延 (40ミリ秒)



@KBWDLY20

短い遅延 (20ミリ秒)

Caps Lock

[Caps Lockオン]オプションは、バーコード データに含まれる大文字と小文字を反転できます。この反転は、ホスト デバイスのキーボードのCaps Lockキーの状態に関係なく発生します。



@KBWCAPO

** Caps Lockオフ



@KBWCAP1

Caps Lockオン



[ALT + テンキーのエミュレート オン]/[すべてを大文字に変換]/[すべてを小文字に変換]は[Caps Lockオン]に優先します。



[Caps Lockオン]機能を選択すると、バーコード データ「AbC」は「aBc」として送信されます。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

大文字/小文字変換

以下の適切なバーコードをスキャンして、すべてのバーコードデータを大文字/小文字の選択した方に変換します。



@KBWCAS0

** 大/小文字変換なし



@KBWCAS1

すべてを大文字に変換



@KBWCAS2

すべてを小文字に変換

E
example

[すべてを小文字に変換]機能が有効になっている場合、バーコードデータ「AbC」は「abc」として送信されます。



[ALT + テンキーのエミュレート オン]が選択されている場合、[すべてを小文字に変換]および[すべてを大文字に変換]は機能しません。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

テンキーのエミュレート



[テンキーをエミュレートしない1]: 数字 (0~9) の送信は、メイン キーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

[テンキーをエミュレートする1]: 数字 (0~9) の送信は、テンキーのキーストロークとしてエミュレートされます。シミュレートされたテンキーのNum Lockの状態は、ホスト デバイスのNum Lockの状態によって決定されます。ホスト デバイスのNum Lockがオフになっている場合、シミュレートされたテンキーの出力は数字ではなくファンクションキーになります。

[テンキーをエミュレートしない2]: 「+」、「-」、「*」、および「/」の送信は、メイン キーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。

[テンキーをエミュレートする2]: 「+」、「-」、「*」、および「/」の送信は、テンキーのキーストロークとしてエミュレートされます。



@KBWNUM0

** テンキーをエミュレートしない1



@KBWNUM1

テンキーをエミュレートする1



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@KBWNCH0

** テンキーをエミュレートしない2



@KBWNCH1

テンキーをエミュレートする2



[ALT + テンキーのエミュレート オン]は[テンキーをエミュレートする]より優先されます。

E
example

[テンキーをエミュレートする1]機能が有効になっているとします。

ホスト デバイスのNum Lockがオンの場合、「A4.5」は「A4.5」として送信されます。

ホスト デバイスのNum Lockがオフの場合、「A4.5」は以下のように「.A」として送信されます。

1. 「A」はメインキーボード上で送信されます。
2. 「4」はファンクションキー「左へカーソル移動」として送信されます。
3. 「.」はメインキーボード上で送信されます。
4. 「5」はファンクションキーに対応していないため送信されません。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

高速モード

[**高速モード オン**]が選択されている場合、スキャナーからホストへの文字送信が高速になります。ホストで文字が失われる場合は、高速モードをオフにするか、ポーリングレートをより大きな値に変更します。



@KBWFAS0

** 高速モードオフ



@KBWFAS1

高速モード オン



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

ポーリングレート

このパラメーターは、USBキーボードのポーリングレートを指定します。ホストで文字が失われる場合は、ポーリングレートをより大きな値に変更します。



@KBWPOR0

1ミリ秒



@KBWPOR1

2ミリ秒



@KBWPOR2

3ミリ秒



@KBWPOR3

** 4ミリ秒



@KBWPOR4

5ミリ秒



@KBWPOR5

6ミリ秒



@KBWPOR6

7ミリ秒



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@KBWPOR7

8ミリ秒



@KBWPOR8

9ミリ秒



@KBWPOR9

10ミリ秒



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

USB CDC (COM)

スキャナーがホスト デバイスのUSBポートに接続されている場合、USB CDC (COM) 機能により、ホスト デバイスはシリアルポートと同じ方法でデータを受信できます。この機能を使用する場合、ドライバーが必要です。



@INTERF8

USB CDC (COM)



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

HID POS (POS HIDバーコード スキャナー)

はじめに

新しいアプリケーション プログラムにはHID-POSインターフェイスをおすすめします。単一のUSBレポートで最大56文字を送信でき、キーボードエミュレーションよりも効率的です。

特長：

1. HIDベース、カスタム ドライバーは不要。
2. キーボードエミュレーションや従来のRS-232インターフェイスよりも効率的な通信方法。



@INTERF5

USB HID-POS

プログラムでスキャナーにアクセスする

CreateFileを使用してHIDデバイスとしてスキャナーにアクセスし、ReadFileを使用してスキャンしたデータをアプリケーション プログラムに配信します。WriteFileを使用してスキャナーにデータを送信します。

USBおよびHIDインターフェイスについて詳しくは、<https://www.usb.org/> (英語サイト) を参照してください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

スキャンされたデータの取得

バーコードが読み取られた後、スキャナーは以下のように入力レポートを送信します。

	ビット							
バイト	7	6	5	4	3	2	1	0
0	レポートID = 0x02							
1	バーコード長							
2 ~ 57	デコードされたデータ (1 ~ 56)							
58 ~ 61	予約済み							
62	読み取りコード識別子またはN/C : 0x00							
63	-	-	-	-	-	-	-	デコードされたデータの続き

スキャナーへのコマンドの送信

この出力レポートは、コマンドをスキャナーに送信するために使用されます。すべてのプログラミング コマンドを使用できます。

	ビット							
バイト	7	6	5	4	3	2	1	0
0	レポートID = 0x04							
1	コマンドの長さ							
2 ~ 63	コマンド (1 ~ 62)							



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

VID/PID

USBは、VID（ベンダーID）およびPID（製品ID）を使用してデバイスの識別および位置の特定を行います。VIDはUSB Implementers Forumによって割り当てられます。HPのベンダーIDは03F0（16進数）です。

製品	インターフェイス	PID（16進数）	PID（10進数）
HR2150-HP	USB HIDキーボード	0A69	2665
	USB CDC（COM）	0B69	2921
	HID POS	0C69	3177



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

第5章 読み取りコード

はじめに

すべての読み取りコード（バーコードの種類）には固有の属性があります。この章では、さまざまな読み取りコードを識別できるようにスキャナーを構成するためのプログラミング バーコードを示します。スキャナーの効率を上げるために、ほとんど使用されない読み取りコードを無効にすることをおすすめします。

グローバル設定

すべての読み取りコードを有効/無効にする

[すべての読み取りコードを無効にする]機能が有効になっている場合、スキャナーはプログラミング バーコード以外のバーコードを読み取ることができません。



@ALLENA1

すべての読み取りコードを有効にする



@ALLENA0

すべての読み取りコードを無効にする

1D読み取りコードを有効/無効にする



@ALL1DC1

1D読み取りコードを有効にする



@ALL1DC0

1D読み取りコードを無効にする



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

2D読み取りコードを有効/無効にする



@ALL2DC1

2D読み取りコードを有効にする



@ALL2DC0

2D読み取りコードを無効にする

郵便読み取りコードを有効/無効にする



@ALLPST1

すべての郵便読み取りコードを有効にする



@ALLPST0

すべての郵便読み取りコードを無効にする



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

1Dツインコード

1Dツインコードは、同じ読み取りコードまたは異なる読み取りコードが縦方向に並列された2つの1Dバーコードです。両方のバーコードが同様の仕様を持ち、近接して配置されている必要があります。

以下のように、1Dツインコードを読み取る方法は3つあります。

[シングル1Dコードのみ]：どちらかの1Dコードを読み取ります。

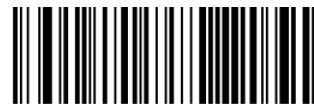
[ツイン1Dコードのみ]：両方の1Dコードを読み取ります。上側の1Dコードの後に下側の1Dコードの順で送信されます。

[シングルとツインの両方]：両方の1Dコードを読み取ります。成功した場合は、ツイン1Dコードのみとして送信します。それ以外の場合は、シングル1Dコードのみを試します。



@A1DDOU0

** シングル1Dコードのみ



@A1DDOU2

ツイン1Dコードのみ



@A1DDOU1

シングルとツインの両方



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Code 128

工場出荷時設定の復元



@128DEF

Code 128の工場出荷時設定の復元

Code 128を有効/無効にする



@128ENA1

** Code 128を有効にする



@128ENA0

Code 128を無効にする



スキャナーがCode 128バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Code 128を有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

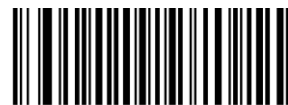
Code 128の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるCode 128バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@128MIN

最小長の設定（初期設定：1）



@128MAX

最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のCode 128/バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのCode 128/バーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるCode 128バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

EAN-8

工場出荷時設定の復元



@EA8DEF

EAN-8の工場出荷時設定の復元

EAN-8を有効/無効にする



@EA8ENA1

** EAN-8を有効にする



@EA8ENA0

EAN-8を無効にする



スキャナーがEAN-8バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[EAN-8を有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。

チェックキャラクタの送信

EAN-8の長さは8桁で、最後の1文字はデータの整合性の検証に使用されるチェックキャラクタです。



@EA8CHK2

** EAN-8のチェックキャラクタを送信する



@EA8CHK1

EAN-8のチェックキャラクタを送信しない



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

2桁のアドオンコード

EAN-8バーコードに2桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青色の点線で囲まれた部分はEAN-8バーコードであり、赤色の点線で囲まれた部分は2桁のアドオンコードです。



@EA8AD20

** 2桁のアドオンコードを無効にする



@EA8AD21

2桁のアドオンコードを有効にする



[2桁のアドオンコードを無効にする]：スキャナーはEAN-8を読み取りますが、2桁のアドオンコードがあるEAN-8バーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、2桁のアドオンコードのないEAN-8バーコードを読み取ることもできます。

[2桁のアドオンコードを有効にする]：スキャナーは、2桁のアドオンコードがあるものとないものが混在したEAN-8バーコードを読み取ります。



@SETUPE0

** セットアップの終了



セットアップの開始

5桁のアドオンコード

EAN-8バーコードに5桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青色の点線で囲まれた部分はEAN-8バーコードであり、赤色の点線で囲まれた部分は5桁のアドオンコードです。



** 5桁のアドオンコードを無効にする



5桁のアドオンコードを有効にする



[5桁のアドオンコードを無効にする]: スキャナーはEAN-8を読み取りますが、5桁のアドオンコードがあるEAN-8バーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、5桁のアドオンコードのないEAN-8バーコードを読み取ることもできます。

[5桁のアドオンコードを有効にする]: スキャナーは、5桁のアドオンコードがあるものとないものが混在したEAN-8バーコードを読み取ります。



** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

EAN-8をEAN-13に変換する

[EAN-8をEAN-13に変換する] : 送信する前に、EAN-8でデコードされたデータをEAN-13フォーマットに変換します。変換後、データはEAN-13フォーマットに従い、EAN-13プログラミングの選択（例：チェックキャラクタ）の影響を受けます。

[EAN-8をEAN-13に変換しない] : EAN-8でデコードされたデータは、変換されずにEAN-8データとして送信されます。



@EA8EXP0

** EAN-8をEAN-13に変換しない



@EA8EXP1

EAN-8をEAN-13に変換する



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

EAN-13

工場出荷時設定の復元



@E13DEF

EAN-13の工場出荷時設定の復元

EAN-13を有効/無効にする



@E13ENA1

** EAN-13を有効にする



@E13ENA0

EAN-13を無効にする



スキャナーがEAN-13バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[EAN-13を有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェックキャラクタの送信



@E13CHK2

** EAN-13のチェックキャラクタを送信する



@E13CHK1

EAN-13のチェックキャラクタを送信しない

2桁のアドオンコード

EAN-13バーコードに2桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青色の点線で囲まれた部分はEAN-13バーコードであり、赤色の点線で囲まれた部分は2桁のアドオンコードです。



@E13AD20

** 2桁のアドオンコードを無効にする



@E13AD21

2桁のアドオンコードを有効にする



[2桁のアドオンコードを無効にする]：スキャナーはEAN-13を読み取りますが、2桁のアドオンコードがあるEAN-13バーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、2桁のアドオンコードのないEAN-13バーコードを読み取ることもできます。

[2桁のアドオンコードを有効にする]：スキャナーは、2桁のアドオンコードがあるものとないものが混在したEAN-13バーコードを読み取ります。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

5桁のアドオンコード

EAN-13バーコードに5桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青色の点線で囲まれた部分はEAN-13バーコードであり、赤色の点線で囲まれた部分は5桁のアドオンコードです。



@E13AD50

** 5桁のアドオンコードを無効にする



@E13AD51

5桁のアドオンコードを有効にする



[5桁のアドオンコードを無効にする]：スキャナーはEAN-13を読み取りますが、5桁のアドオンコードがあるEAN-13バーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、5桁のアドオンコードのないEAN-13バーコードを読み取ることもできます。

[5桁のアドオンコードを有効にする]：スキャナーは、5桁のアドオンコードがあるものとないものが混在したEAN-13バーコードを読み取ります。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

UPC-E

工場出荷時設定の復元



@UPEDEF
UPC-Eの工場出荷時設定の復元

UPC-Eを有効/無効にする



@UPEEN01
** UPC-E0を有効にする



@UPEEN11
UPC-E1を有効にする



@UPEEN00
UPC-E0を無効にする



@UPEEN10
** UPC-E1を無効にする



スキャナーがUPC-E0/UPC-E1バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[UPC-E0を有効にする]/[UPC-E1を有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェックキャラクタの送信

UPC-Eの長さは8桁で、最後の1文字はデータの整合性の検証に使用されるチェックキャラクタです。



@UPECHK2

** UPC-Eのチェックキャラクタを送信する



@UPECHK1

UPC-Eのチェックキャラクタを送信しない

2桁のアドオンコード

UPC-Eバーコードに2桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青色の点線で囲まれた部分はUPC-Eバーコードであり、赤色の点線で囲まれた部分は2桁のアドオンコードです。



@UPEAD20

** 2桁のアドオンコードを無効にする



@UPEAD21

2桁のアドオンコードを有効にする



[2桁のアドオンコードを無効にする]: スキャナーはUPC-Eを読み取りますが、2桁のアドオンコードがあるUPC-Eバーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、2桁のアドオンコードのないUPC-Eバーコードを読み取ることもできます。

[2桁のアドオンコードを有効にする]: スキャナーは、2桁のアドオンコードがあるものとなないものが混在したUPC-Eバーコードを読み取ります。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

5桁のアドオンコード

UPC-Eバーコードに5桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青色の点線で囲まれた部分はUPC-Eバーコードであり、赤色の点線で囲まれた部分は5桁のアドオンコードです。



@UPEAD50

** 5桁のアドオンコードを無効にする



@UPEAD51

5桁のアドオンコードを有効にする



[5桁のアドオンコードを無効にする]：スキャナーはUPC-Eを読み取りますが、5桁のアドオンコードがあるUPC-Eバーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、5桁のアドオンコードのないUPC-Eバーコードを読み取ることもできます。

[5桁のアドオンコードを有効にする]：スキャナーは、5桁のアドオンコードがあるものとなないものが混在したUPC-Eバーコードを読み取ります。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

プリアンブル文字の送信

プリアンブル文字（国コードおよびシステム キャラクター）は、UPC-Eバーコードの一部として送信できます。UPC-Eプリアンブルをホスト デバイスに送信するには、システム キャラクターのみを送信するか、システム キャラクターおよび国コード（米国の場合は「0」）を送信するか、またはプリアンブルを送信しないかを選択します。



@UPEPRE1

** システム キャラクター



@UPEPRE0

プリアンブルなし



@UPEPRE2

システム キャラクターおよび国コード

UPC-EをUPC-Aに変換する

[UPC-EをUPC-Aに変換する]：送信する前に、UPC-E（ゼロ抑制）でデコードされたデータをUPC-Aフォーマットに変換します。変換後、データはUPC-Aフォーマットに従い、UPC-Aプログラミングの選択（例：プリアンブル、チェックキャラクタ）の影響を受けます。

[UPC-EをUPC-Aに変換しない]：UPC-Eでデコードされたデータは、変換されずにUPC-Eデータとして送信されます。



@UPEEXP0

** UPC-EをUPC-Aに変換しない



@UPEEXP1

UPC-EをUPC-Aに変換する



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

UPC-A

工場出荷時設定の復元



@UPADEF
UPC-Aの工場出荷時設定の復元

UPC-Aを有効/無効にする



@UPAENA1
** UPC-Aを有効にする



@UPAENA0
UPC-Aを無効にする



スキャナーがUPC-Aバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[UPC-Aを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。

チェックキャラクタの送信

UPC-Aの長さは13桁で、最後の1文字はデータの整合性の検証に使用されるチェックキャラクタです。



@UPACHK2
** UPC-Aのチェックキャラクタを送信する



@UPACHK1
UPC-Aのチェックキャラクタを送信しない



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

2桁のアドオンコード

UPC-Aバーコードに2桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青色の点線で囲まれた部分はUPC-Aバーコードであり、赤色の点線で囲まれた部分は2桁のアドオンコードです。



@UPAAD20

** 2桁のアドオンコードを無効にする



@UPAAD21

2桁のアドオンコードを有効にする



[2桁のアドオンコードを無効にする]: スキャナーはUPC-Aを読み取りますが、2桁のアドオンコードがあるUPC-Aバーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、2桁のアドオンコードのないUPC-Aバーコードを読み取ることもできます。

[2桁のアドオンコードを有効にする]: スキャナーは、2桁のアドオンコードがあるものとないものが混在したUPC-Aバーコードを読み取ります。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

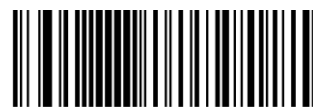
5桁のアドオンコード

UPC-Aバーコードに5桁のアドオンコードを追加して、新しいバーコードを作成できます。以下の例では、青色の点線で囲まれた部分はUPC-Aバーコードであり、赤色の点線で囲まれた部分は5桁のアドオンコードです。



@UPAAD50

** 5桁のアドオンコードを無効にする



@UPAAD51

5桁のアドオンコードを有効にする



[5桁のアドオンコードを無効にする]：スキャナーはUPC-Aを読み取りますが、5桁のアドオンコードがあるUPC-Aバーコードを渡された場合にはアドオンコードを無視します。また、5桁のアドオンコードのないUPC-Aバーコードを読み取ることもできます。

[5桁のアドオンコードを有効にする]：スキャナーは、5桁のアドオンコードがあるものとないものが混在したUPC-Aバーコードを読み取ります。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

プリアンブル文字の送信

プリアンブル文字（国コードおよびシステム キャラクター）は、UPC-Aバーコードの一部として送信できます。UPC-Aプリアンブルをホスト デバイスに送信するには、システム キャラクターのみを送信するか、システム キャラクターおよび国コード（米国の場合は「0」）を送信するか、またはプリアンブルを送信しないかを選択します。



@UPAPRE0

** プリアンブルなし



@UPAPRE1

システム キャラクター



@UPAPRE2

システム キャラクターおよび国コード



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

クーポン

拡張クーポン コード付きUPC-A/EAN-13

以下の3種類のクーポン コード + 拡張クーポン コードがサポートされています。

1. UPC-A (「5」で始まる) + GS1-128
2. UPC-A (「5」で始まる) + GS1 Databar
3. EAN-13 (「99」で始まる) + GS1-128

拡張クーポン コード付きUPC-A/EAN-13を有効または無効にするには、以下の適切なバーコードを使用します。初期設定（オフ）のままにすると、スキャナーはクーポンコードおよび拡張クーポンコードを単一のバーコードとして扱います。

[連結許可]コードをスキャンすると、スキャナーは1回のスキャンでクーポンコードと拡張クーポンコードを見つけた場合、両方を個別の読み取りコードとして送信します。それ以外の場合は、最初に読み取ったクーポンコードを送信します。

[連結必須]コードをスキャンすると、データを送信するには1回のスキャンでクーポンコードと拡張クーポンコードを見つけて読み取る必要があります。両方のコードが読み取られなければデータは出力されません。



@CPNENA0

** オフ



@CPNENA1

連結許可



@CPNENA2

連結必須



UPC-Aクーポン機能を使用する場合は、「UPC-Aのプリアンブル文字の送信」機能で**[システム キャラクター]**または**[システム キャラクターおよび国コード]**が選択されていることを確認してください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

クーポンGS1 Databar出力

UPCとGS1 Databarの両方のコードを持つクーポンをスキャンする場合は、GS1 Databarコードのデータのみをスキャンして出力することをおすすめします。GS1 Databarコードのデータのみをスキャンして出力するには、以下の[GS1出力オン]バーコードをスキャンします。

[GS1出力オフ]を選択すると、「拡張クーポン コード付きUPC-A/EAN-13」機能の選択に応じて、UPCとGS1 Databarの両方のコードを持つクーポンが送信されます。



@CPNGS10

** GS1出力オフ



@CPNGS11

GS1出力オン



UPC-Aクーポン機能を使用する場合は、「UPC-Aのプリアンブル文字の送信」機能で[システム キャラクター]または[システム キャラクターおよび国コード]が選択されていることを確認してください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Interleaved 2 of 5

工場出荷時設定の復元



@I25DEF

Interleaved 2 of 5の工場出荷時設定の復元

Interleaved 2 of 5を有効/無効にする



@I25ENA1

** Interleaved 2 of 5を有効にする



@I25ENA0

Interleaved 2 of 5を無効にする



スキャナーがInterleaved 2 of 5バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、
[Interleaved 2 of 5を有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Interleaved 2 of 5の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるInterleaved 2 of 5バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@I25MIN

最小長の設定（初期設定：6）



@I25MAX

最大長の設定（初期設定：80）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のInterleaved 2 of 5バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのInterleaved 2 of 5バーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるInterleaved 2 of 5バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェックキャラクタの検証

Interleaved 2 of 5ではチェックキャラクタはオプションであり、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

[無効]：スキャナーはInterleaved 2 of 5バーコードをそのまま送信します。

[確認後にチェックキャラクタを送信しない]：スキャナーはすべてのInterleaved 2 of 5バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

[確認後にチェックキャラクタを送信する]：スキャナーはすべてのInterleaved 2 of 5バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

Interleaved 2 of 5の桁数は常に偶数である必要があるため、チェックキャラクタを追加するときに、最初の桁としてゼロを追加する必要がある場合があります。Interleaved 2 of 5バーコードを作成すると、チェックキャラクタが自動的に生成されます。



@I25CHK0

** 無効



@I25CHK1

確認後にチェックキャラクタを送信しない



@I25CHK2

確認後にチェックキャラクタを送信する



[確認後にチェックキャラクタを送信しない]オプションが有効になっている場合、チェックキャラクタを除外すると設定された最小長より短くなるInterleaved 2 of 5バーコードは読み取られません（たとえば、**[確認後にチェックキャラクタを送信しない]**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェックキャラクタを含めて合計4文字のInterleaved 2 of 5バーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

ITF-14

ITF-14は、長さが14文字で最後の文字がチェックキャラクタである、特別な種類のInterleaved 2 of 5です。

ITF-14の優先度原則：長さが14文字で最後の文字がチェックキャラクタであるInterleaved 2 of 5バーコードの場合、ITF-14の構成がInterleaved 2 of 5の設定より優先されます。

工場出荷時設定の復元



@I14DEF

ITF-14の工場出荷時設定の復元

ITF-14を有効/無効にする



@I14ENA0

** ITF-14を無効にする



@I14ENA1

ITF-14を有効にするが、チェックキャラクタを送信しない



@I14ENA2

ITF-14を有効にし、チェックキャラクタを送信する



ITF-14の優先度原則の例：ITF-14が有効で、Interleaved 2 of 5が無効の場合、スキャナーは長さが14文字で最後の文字がチェックキャラクタであるInterleaved 2 of 5バーコードのみを読み取ります。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1
 セットアップの開始

ITF-6

ITF-6は、長さが6文字で最後の文字がチェックキャラクタである、特別な種類のInterleaved 2 of 5です。

ITF-6の優先度原則：長さが6文字で最後の文字がチェックキャラクタであるInterleaved 2 of 5バーコードの場合、ITF-6の構成がInterleaved 2 of 5の設定より優先されます。

工場出荷時設定の復元



@IT6DEF
 ITF-6の工場出荷時設定の復元

ITF-6を有効/無効にする



@IT6ENA0
 ** ITF-6を無効にする



@IT6ENA1
 ITF-6を有効にするが、チェックキャラクタを送信しない



@IT6ENA2
 ITF-6を有効にし、チェックキャラクタを送信する



ITF-6の優先度原則の例：ITF-6が有効で、Interleaved 2 of 5が無効の場合、スキャナーは長さが6文字で最後の文字がチェックキャラクタであるInterleaved 2 of 5バーコードのみを読み取ります。



@SETUPE0
 ** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Matrix 2 of 5

工場出荷時設定の復元



@M25DEF

Matrix 2 of 5の工場出荷時設定の復元

Matrix 2 of 5を有効/無効にする



@M25ENA1

** Matrix 2 of 5を有効にする



@M25ENA0

Matrix 2 of 5を無効にする



スキャナーがMatrix 2 of 5バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Matrix 2 of 5を有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Matrix 2 of 5の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるMatrix 2 of 5バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@M25MIN

最小長の設定（初期設定：4）



@M25MAX

最大長の設定（初期設定：80）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のMatrix 2 of 5バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのMatrix 2 of 5バーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるMatrix 2 of 5バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェックキャラクタの検証

Matrix 2 of 5ではチェックキャラクタはオプションであり、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

[無効]：スキャナーはMatrix 2 of 5バーコードをそのまま送信します。

[確認後にチェックキャラクタを送信しない]：スキャナーはすべてのMatrix 2 of 5バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

[確認後にチェックキャラクタを送信する]：スキャナーはすべてのMatrix 2 of 5バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

Matrix 2 of 5の桁数は常に偶数である必要があるため、チェックキャラクタを追加するときに、最初の桁としてゼロを追加する必要がある場合があります。Matrix 2 of 5バーコードを作成すると、チェックキャラクタが自動的に生成されます。



@M25CHK0

** 無効



@M25CHK1

確認後にチェックキャラクタを送信しない



@M25CHK2

確認後にチェックキャラクタを送信する



[確認後にチェックキャラクタを送信しない]オプションが有効になっている場合、チェックキャラクタを除外すると設定された最小長より短くなるMatrix 2 of 5バーコードは読み取られません（たとえば、**[確認後にチェックキャラクタを送信しない]**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェックキャラクタを含めて合計4文字のMatrix 2 of 5バーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Code 39

工場出荷時設定の復元



@C39DEF

Code 39の工場出荷時設定の復元

Code 39を有効/無効にする



@C39ENA1

** Code 39を有効にする



@C39ENA0

Code 39を無効にする



スキャナーがCode 39バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Code 39を有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Code 39の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるCode 39バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@C39MIN

最小長の設定（初期設定：1）



@C39MAX

最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のCode 39バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのCode 39バーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるCode 39バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェックキャラクタの検証

Code 39ではチェックキャラクタはオプションであり、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

[無効]：スキャナーはCode 39バーコードをそのまま送信します。

[確認後にチェックキャラクタを送信しない]：スキャナーはすべてのCode 39バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

[確認後にチェックキャラクタを送信する]：スキャナーはすべてのCode 39バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。



@C39CHK0

** 無効



@C39CHK1

確認後にチェックキャラクタを送信しない



@C39CHK2

確認後にチェックキャラクタを送信する



[確認後にチェックキャラクタを送信しない]オプションが有効になっている場合、チェックキャラクタを除外すると設定された最小長より短くなるCode 39バーコードは読み取られません（たとえば、**[確認後にチェックキャラクタを送信しない]**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェックキャラクタを含めて合計4文字のCode 39バーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

スタート/ストップ キャラクターを送信する

Code 39は、スタート キャラクターとストップ キャラクターの両方にアスタリスク (*) を使用します。以下の適切なバーコードをスキャンして、スタート/ストップ キャラクターを送信するかどうかを選択できます。



@C39TSC0

** スタート/ストップ キャラクターを送信しない



@C39TSC1

スタート/ストップ キャラクターを送信する

Code 39 Full ASCIIを有効/無効にする

以下の適切なバーコードをスキャンして、すべてのASCII文字を識別するようにスキャナーを設定できます。



@C39ASC0

** Code 39 Full ASCIIを無効にする



@C39ASC1

Code 39 Full ASCIIを有効にする



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Code 32（イタリアの医薬コード）を有効/無効にする

Code 32はイタリアの医薬品業界で使用されるCode 39の変形です。Code 32を有効または無効にするには、下記の適切なバーコードをスキャンします。このパラメーターを機能させるには、Code 39を有効にし、Code 39のチェックキャラクタの検証を無効にする必要があります。



@C39E320

** Code 32を無効にする



@C39E321

Code 32を有効にする

Code 32のプレフィックス

すべてのCode 32バーコードへのプレフィックス文字「A」の追加を有効または無効にするには、下記の適切なバーコードをスキャンします。このパラメーターを機能させるには、Code 32を有効にする必要があります。



@C39S320

** Code 32のプレフィックスを無効にする



@C39S321

Code 32のプレフィックスを有効にする



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Code 32のスタート/ストップキャラクターを送信する

このパラメーターを機能させるには、Code 32を有効にする必要があります。



@C39T320

** Code 32のスタート/ストップキャラクターを送信しない



@C39T321

Code 32のスタート/ストップキャラクターを送信する

Code 32のチェックキャラクタを送信する

このパラメーターを機能させるには、Code 32を有効にする必要があります。



@C39C320

** Code 32のチェックキャラクタを送信しない



@C39C321

Code 32のチェックキャラクタを送信する



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Codabar

工場出荷時設定の復元



@CBADEF

Codabarの工場出荷時設定の復元

Codabarを有効/無効にする



@CBAENA1

** Codabarを有効にする



@CBAENA0

Codabarを無効にする



スキャナーがCodabarバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Codabarを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Codabarの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるCodabarバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



最小長の設定（初期設定：2）



最大長の設定（初期設定：60）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のCodabarバーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのCodabarバーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるCodabarバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェックキャラクタの検証

Codabarではチェックキャラクタはオプションであり、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

[無効]：スキャナーはCodabarバーコードをそのまま送信します。

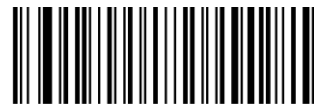
[確認後にチェックキャラクタを送信しない]：スキャナーはすべてのCodabarバーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

[確認後にチェックキャラクタを送信する]：スキャナーはすべてのCodabarバーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。



@CBACHK0

** 無効



@CBACHK1

確認後にチェックキャラクタを送信しない



@CBACHK2

確認後にチェックキャラクタを送信する



[確認後にチェックキャラクタを送信しない]オプションが有効になっている場合、チェックキャラクタを除外すると設定された最小長より短くなるCodabarバーコードは読み取られません（たとえば、**[確認後にチェックキャラクタを送信しない]**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェックキャラクタを含めて合計4文字のCodabarバーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

スタート/ストップ キャラクター

以下の適切なバーコードをスキャンして、スタート/ストップ キャラクターを設定し、そのスタート/ストップ キャラクターを送信するかどうかを選択できます。



@CBATSC0

** スタート/ストップキャラクターを
送信しない



@CBATSC1

スタート/ストップキャラクターを
送信する



@CBASCF0

** ABCD/ABCDをスタート/ストップキャラクターにする



@CBASCF1

ABCD/TN*eをスタート/ストップキャラクターにする



@CBASCF2

abcd/abcdをスタート/ストップキャラクターにする



@CBASCF3

abcd/tn*eをスタート/ストップキャラクターにする



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Code 93

工場出荷時設定の復元



@C93DEF

Code 93の工場出荷時設定の復元

Code 93を有効/無効にする



@C93ENA1

Code 93を有効にする



@C93ENA0

** Code 93を無効にする



スキャナーがCode 93バーコードの識別に失敗した場合は、【セットアップの開始】バーコード、【Code 93を有効にする】バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Code 93の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるCode 93バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@C93MIN

最小長の設定（初期設定：1）



@C93MAX

最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のCode 93バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのCode 93バーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるCode 93バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェックキャラクタの検証

Code 93ではチェックキャラクタはオプションであり、最後の2文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

[無効]：スキャナーはCode 93バーコードをそのまま送信します。

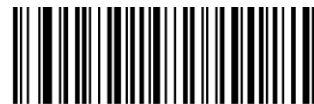
[確認後にチェックキャラクタを送信しない]：スキャナーはすべてのCode 93バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の2桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

[確認後にチェックキャラクタを送信する]：スキャナーはすべてのCode 93バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。



@C93CHK0

無効



@C93CHK1

** 確認後にチェックキャラクタを送信しない



@C93CHK2

確認後にチェックキャラクタを送信する



[確認後にチェックキャラクタを送信しない]オプションが有効になっている場合、2桁のチェックキャラクタを除外すると設定された最小長より短くなるCode 93バーコードは読み取られません（たとえば、**[確認後にチェックキャラクタを送信しない]**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、2桁のチェックキャラクタを含めて合計4文字のCode 93バーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

China Post 25

工場出荷時設定の復元



@CHPDEF

China Post 25の工場出荷時設定の復元

China Post 25を有効/無効にする



@CHPENA1

China Post 25を有効にする



@CHPENA0

** China Post 25を無効にする



スキャナーがChina Post 25バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[China Post 25を有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

China Post 25の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるChina Post 25バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのため、最小長および最大長を設定する必要があります。



@CHPMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@CHPMAX

最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のChina Post 25バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのChina Post 25バーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるChina Post 25バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェックキャラクタの検証

China Post 25ではチェックキャラクタはオプションであり、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

[無効]：スキャナーはChina Post 25バーコードをそのまま送信します。

[確認後にチェックキャラクタを送信しない]：スキャナーはすべてのChina Post 25バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

[確認後にチェックキャラクタを送信する]：スキャナーはすべてのChina Post 25バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。



@CHPCHK0

** 無効



@CHPCHK1

確認後にチェックキャラクタを送信しない



@CHPCHK2

確認後にチェックキャラクタを送信する



[確認後にチェックキャラクタを送信しない]オプションが有効になっている場合、チェックキャラクタを除外すると設定された最小長より短くなるChina Post 25バーコードは読み取られません（たとえば、**[確認後にチェックキャラクタを送信しない]**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェックキャラクタを含めて合計4文字のChina Post 25バーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

GS1-128 (UCC/EAN-128)

工場出荷時設定の復元



@GS1DEF
GS1-128の工場出荷時設定の復元

GS1-128を有効/無効にする



@GS1ENA1
** GS1-128を有効にする



@GS1ENA0
GS1-128を無効にする



スキャナーがGS1-128バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[GS1-128を有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

GS1-128の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるGS1-128バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@GS1MIN

最小長の設定（初期設定：1）



@GS1MAX

最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のGS1-128バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのGS1-128バーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるGS1-128バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

GS1 Databar (RSS)

工場出荷時設定の復元



@RSSDEF
GS1 Databarの工場出荷時設定の復元

GS1 Databarを有効/無効にする



@RSSENA1
** GS1 Databarを有効にする



@RSSENA0
GS1 Databarを無効にする



スキャナーがGS1 Databarバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[GS1 Databarを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

アプリケーション識別子「01」を送信する



@RSSTAI1

** アプリケーション識別子「01」を送信する



@RSSTAI0

アプリケーション識別子「01」を送信しない

GS1コンボジット (EAN・UCCコンボジット)

工場出荷時設定の復元



@CPTDEF

GS1コンボジットの工場出荷時設定の復元

GS1コンボジットを有効/無効にする



@CPTENA1

GS1コンボジットを有効にする



@CPTENA0

** GS1コンボジットを無効にする



スキャナーがGS1コンボジット バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[GS1コンボジットを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

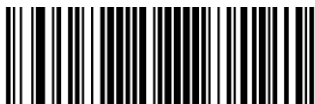
** セットアップの終了



@SETUPE1

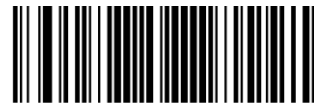
セットアップの開始

UPC/EANコンポジットを有効/無効にする



@CPTUPC1

UPC/EANコンポジットを有効にする



@CPTUPC0

** UPC/EANコンポジットを無効にする

Code 11

工場出荷時設定の復元



@C11DEF

Code 11の工場出荷時設定の復元

Code 11を有効/無効にする



@C11ENA1

Code 11を有効にする



@C11ENA0

** Code 11を無効にする



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



スキャナーがCode 11バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【Code 11を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Code 11の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるCode 11バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@C11MIN
最小長の設定（初期設定：4）



@C11MAX
最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のCode 11バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのCode 11バーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるCode 11バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェックキャラクタの検証

Code 11ではチェックキャラクタはオプションであり、最後の1文字または2文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

[無効]オプションが有効になっている場合、スキャナーはCode 11バーコードをそのまま送信します。



@C11CHK0

無効



@C11CHK1

**1桁のチェックキャラクタ、MOD11



@C11CHK2

2桁のチェックキャラクタ、MOD11/MOD11



@C11CHK3

2桁のチェックキャラクタ、MOD11/MOD9



@C11CHK4

1桁のチェックキャラクタ、MOD11 (長さ<=10)
2桁のチェックキャラクタ、MOD11/MOD11 (長さ>10)



@C11CHK5

1桁のチェックキャラクタ、MOD11 (長さ<=10)
2桁のチェックキャラクタ、MOD11/MOD9 (長さ>10)



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェックキャラクタの送信



@C11TCK0

Code 11のチェックキャラクタを送信しない



@C11TCK1

** Code 11のチェックキャラクタを送信する



チェックキャラクタアルゴリズムを選択して[チェックキャラクタを送信しない]オプションを有効にした場合、チェックキャラクタを除外すると設定された最小長より短くなるCode 11バーコードは読み取られません（たとえば、[1桁のチェックキャラクタ、MOD11]オプションおよび[チェックキャラクタを送信しない]オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェックキャラクタを含めて合計4文字のCode 11バーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

ISBN

工場出荷時設定の復元



@ISBDEF

ISBNの工場出荷時設定の復元

ISBNを有効/無効にする



@ISBENA1

ISBNを有効にする



@ISBENA0

** ISBNを無効にする



スキャナーがISBNバーコードの識別に失敗した場合は、【セットアップの開始】バーコード、【ISBNを有効にする】バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

ISBNフォーマットの設定



@ISBT101

** ISBN-10



@ISBT100

ISBN-13



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

ISSN

工場出荷時設定の復元



@ISSDEF

ISSNの工場出荷時設定の復元

ISSNを有効/無効にする



@ISSENA1

ISSNを有効にする



@ISSENA0

** ISSNを無効にする



スキャナーがISSNバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[ISSNを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Industrial 25

工場出荷時設定の復元



@L25DEF

Industrial 25の工場出荷時設定の復元

Industrial 25を有効/無効にする



@L25ENA1

Industrial 25を有効にする



@L25ENA0

** Industrial 25を無効にする



スキャナーがIndustrial 25バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Industrial 25を有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Industrial 25の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるIndustrial 25バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@L25MIN

最小長の設定（初期設定：6）



@L25MAX

最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のIndustrial 25バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのIndustrial 25バーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるIndustrial 25バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

チェックキャラクタの検証

Industrial 25ではチェックキャラクタはオプションであり、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

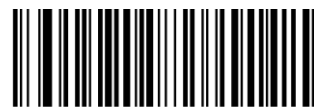
[無効]：スキャナーはIndustrial 25バーコードをそのまま送信します。

[確認後にチェックキャラクタを送信しない]：スキャナーはすべてのIndustrial 25バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

[確認後にチェックキャラクタを送信する]：スキャナーはすべてのIndustrial 25バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。



@L25CHK0
** 無効



@L25CHK1
確認後にチェックキャラクタを送信しない



@L25CHK2
確認後にチェックキャラクタを送信する



[確認後にチェックキャラクタを送信しない]オプションが有効になっている場合、チェックキャラクタを除外すると設定された最小長より短くなるIndustrial 25バーコードは読み取られません（たとえば、**[確認後にチェックキャラクタを送信しない]**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェックキャラクタを含めて合計4文字のIndustrial 25バーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Standard 25

工場出荷時設定の復元



@S25DEF

Standard 25の工場出荷時設定の復元

Standard 25を有効/無効にする



@S25ENA1

Standard 25を有効にする



@S25ENA0

** Standard 25を無効にする



スキャナーがStandard 25バーコードの識別に失敗した場合は、**[セットアップの開始]**バーコード、**[Standard 25を有効にする]**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Standard 25の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるStandard 25バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@S25MIN
最小長の設定（初期設定：6）



@S25MAX
最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のStandard 25バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのStandard 25バーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるStandard 25バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェックキャラクタの検証

Standard 25ではチェックキャラクタはオプションであり、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

[無効]：スキャナーはStandard 25バーコードをそのまま送信します。

[確認後にチェックキャラクタを送信しない]：スキャナーはすべてのStandard 25バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

[確認後にチェックキャラクタを送信する]：スキャナーはすべてのStandard 25バーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。



@S25CHK0

** 無効



@S25CHK1

確認後にチェックキャラクタを送信しない



@S25CHK2

確認後にチェックキャラクタを送信する



[確認後にチェックキャラクタを送信しない]オプションが有効になっている場合、チェックキャラクタを除外すると設定された最小長より短くなるStandard 25バーコードは読み取られません（たとえば、**[確認後にチェックキャラクタを送信しない]**オプションが有効になっている、最小長が4に設定されている場合は、チェックキャラクタを含めて合計4文字のStandard 25バーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Plessey

工場出荷時設定の復元



@PLYDEF

Plesseyの工場出荷時設定の復元

Plesseyを有効/無効にする



@PLYENA1

Plesseyを有効にする



@PLYENA0

** Plesseyを無効にする



スキャナーがPlesseyバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Plesseyを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Plesseyの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるPlesseyバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@PLYMIN

最小長の設定（初期設定：4）



@PLYMAX

最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のPlesseyバーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのPlesseyバーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるPlesseyバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェックキャラクタの検証

Plesseyではチェックキャラクタはオプションであり、最後の2文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

[無効]：スキャナーはPlesseyバーコードをそのまま送信します。

[確認後にチェックキャラクタを送信しない]：スキャナーはすべてのPlesseyバーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは最後の2桁を除いて送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。

[確認後にチェックキャラクタを送信する]：スキャナーはすべてのPlesseyバーコードの整合性をチェックして、データがチェックキャラクタアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは送信されますが、失敗したバーコードは送信されません。



@PLYCHK0

** 無効



@PLYCHK1

確認後にチェックキャラクタを送信しない



@PLYCHK2

確認後にチェックキャラクタを送信する



[確認後にチェックキャラクタを送信しない]オプションが有効になっている場合、チェックキャラクタを除外すると設定された最小長より短くなるPlesseyバーコードは読み取られません（たとえば、**[確認後にチェックキャラクタを送信しない]**オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェックキャラクタを含めて合計4文字のPlesseyバーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

MSI-Plessey

工場出荷時設定の復元



@MSIDF

MSI-Plesseyの工場出荷時設定の復元

MSI-Plesseyを有効/無効にする



@MSIENA1

MSI-Plesseyを有効にする



@MSIENA0

** MSI-Plesseyを無効にする



スキャナーがMSI-Plesseyバーコードの識別に失敗した場合は、**[セットアップの開始]**バーコード、**[MSI-Plesseyを有効にする]**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

MSI-Plesseyの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるMSI-Plesseyバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@MSIMIN

最小長の設定（初期設定：4）



@MSIMAX

最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のMSI-Plesseyバーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのMSI-Plesseyバーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるMSI-Plesseyバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェックキャラクタの検証

MSI-Plesseyではチェックキャラクタはオプションであり、最後の1文字または2文字として追加できます。これは、データの整合性の検証に使用される計算値です。

[無効]オプションが有効になっている場合、スキャナーはMSI-Plesseyバーコードをそのまま送信します。



@MSICK0

無効



@MSICK1

** 1桁のチェックキャラクタ、MOD10



@MSICK2

2桁のチェックキャラクタ、MOD10/MOD10



@MSICK3

2桁のチェックキャラクタ、MOD10/MOD11



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

チェックキャラクタの送信



@MSITCK1

** MSI-Plesseyのチェックキャラクタを送信する



@MSITCK0

MSI-Plesseyのチェックキャラクタを送信しない



チェックキャラクタアルゴリズムを選択して[チェックキャラクタを送信しない]オプションを有効にした場合、チェックキャラクタを除外すると設定された最小長より短くなるMSI-Plesseyバーコードは読み取られません（たとえば、[1桁のチェックキャラクタ、MOD10]オプションおよび[チェックキャラクタを送信しない]オプションが有効になっていて、最小長が4に設定されている場合は、チェックキャラクタを含めて合計4文字のMSI-Plesseyバーコードを読み取ることはできません）。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

AIM 128

工場出荷時設定の復元



@AIMDEF

AIM 128の工場出荷時設定の復元

AIM 128を有効/無効にする



@AIMENA1

AIM 128を有効にする



@AIMENA0

** AIM 128を無効にする



スキャナーがAIM 128バーコードの識別に失敗した場合は、【セットアップの開始】バーコード、【AIM 128を有効にする】バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

AIM 128の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるAIM 128バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@AIMMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@AIMMAX

最大長の設定（初期設定：48）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のAIM 128バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのAIM 128バーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるAIM 128バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

ISBT 128

工場出荷時設定の復元



@IBTDEF

ISBT 128の工場出荷時設定の復元

ISBT 128を有効/無効にする



@IBTENA1

ISBT 128を有効にする



@IBTENA0

** ISBT 128を無効にする



スキャナーがISBT 128バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[ISBT 128を有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Code 49

工場出荷時設定の復元



@C49DEF

Code 49の工場出荷時設定の復元

Code 49を有効/無効にする



@C49ENA1

Code 49を有効にする



@C49ENA0

** Code 49を無効にする



スキャナーがCode 49バーコードの識別に失敗した場合は、【セットアップの開始】バーコード、【Code 49を有効にする】バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Code 49の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるCode 49バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@C49MIN

最小長の設定（初期設定：1）



@C49MAX

最大長の設定（初期設定：80）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のCode 49バーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのCode 49バーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるCode 49バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Code 16K

工場出荷時設定の復元



@16KDEF

Code 16Kの工場出荷時設定の復元

Code 16Kを有効/無効にする



@16KENA1

Code 16Kを有効にする



@16KENA0

** Code 16Kを無効にする



スキャナーがCode 16Kバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Code 16Kを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Code 16Kの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるCode 16Kバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@16KMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@16KMAX

最大長の設定（初期設定：80）



最小長が最大長より大きく設定されている場合、スキャナーは最小長または最大長のCode 16Kバーコードのみを読み取ります。最小長が最大長と同じ場合、その長さのCode 16Kバーコードのみが読み取られます。



8～12文字が含まれるCode 16Kバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

PDF417

工場出荷時設定の復元



@PDFDEF

PDF417の工場出荷時設定の復元

PDF417を有効/無効にする



@PDFENA1

** PDF417を有効にする



@PDFENA0

PDF417を無効にする



スキャナーがPDF417バーコードの識別に失敗した場合は、**【セットアップの開始】**バーコード、**【PDF417を有効にする】**バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

PDF417の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるPDF417バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@PDFMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@PDFMAX

最大長の設定（初期設定：2710）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのPDF417バーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。



8～12文字が含まれるPDF417バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

PDF417ツイン コード

PDF417ツイン コードは、縦方向または横方向に並列された2つのPDF417バーコードです。これらは両方とも通常のバーコードまたは反転したバーコードでなければなりません。両方のバーコードが同様の仕様を持ち、近接して配置されている必要があります。

以下のように、PDF417ツイン コードを読み取る方法は3つあります。

- ◇ [シングルPDF417のみ] : どちらかのPDF417コードを読み取ります。
- ◇ [ツインPDF417のみ] : 両方のPDF417コードを読み取ります。
- ◇ [シングルとツインの両方] : 両方のPDF417コードを読み取ります。成功した場合は、ツインPDF417のみとして送信します。それ以外の場合は、シングルPDF417のみを試します。



@PDFDOU0

** シングルPDF417のみ



@PDFDOU1

ツインPDF417のみ



@PDFDOU2

シングルとツインの両方



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

PDF417反転

通常のバーコード：明るい背景に暗いバー。

反転バーコード：暗い背景に明るいバー。



@PDFINV0

** 通常のPDF417バーコードのみを読み取る



@PDFINV1

反転PDF417バーコードのみを読み取る



@PDFINV2

両方を読み取る

文字エンコード



@PDFENC0

** 初期設定の文字エンコード



@PDFENC1

UTF-8



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

PDF417 ECI出力



@PDFECI0

PDF417 ECI出力を無効にする



@PDFECI1

** PDF417 ECI出力を有効にする



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Micro PDF417

工場出荷時設定の復元



@MPDDEF

Micro PDF417の工場出荷時設定の復元

Micro PDF417を有効/無効にする



@MPDENA0

Micro PDF417を有効にする



@MPDENA1

** Micro PDF417を無効にする



スキャナーがMicro PDF417バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Micro PDF417を有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Micro PDF417の長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるMicro PDF417バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのため、最小長および最大長を設定する必要があります。



@MPDMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@MPDMAX

最大長の設定（初期設定：366）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのMicro PDF417バーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。



8～12文字が含まれるMicro PDF417バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

QRコード

工場出荷時設定の復元



@QRCDEF

QRコードの工場出荷時設定の復元

QRコードを有効/無効にする



@QRCENA1

** QRコードを有効にする



@QRCENA0

QRコードを無効にする



スキャナーがQRコード バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[QRコードを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

QRコードの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるQRコード バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@QRDMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@QRDMAX

最大長の設定（初期設定：7089）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのQRコード バーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。



8～12文字が含まれるQRコードバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

QRツインコード

QRツインコードは、縦方向または横方向に並列された2つのQRバーコードです。これらは両方とも通常のバーコードまたは反転したバーコードでなければなりません。両方のバーコードが同様の仕様を持ち、近接して配置されている必要があります。

以下のように、QRツインコードを読み取る方法は3つあります。

[シングルQRのみ]：どちらかのQRコードを読み取ります。

[ツインQRのみ]：両方のQRコードを読み取ります。左側（上側）のQRコードの後に右側（下側）のQRコードの順で送信されます。

[シングルとツインの両方]：両方のQRコードを読み取ります。成功した場合は、ツインQRのみとして送信します。それ以外の場合は、シングルQRのみを試します。



@QRCDU0

** シングルQRのみ



@QRCDU1

ツインQRのみ



@QRCDU2

シングルとツインの両方



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

QR反転

通常のバーコード：明るい背景に暗いバー。反転バーコード：暗い背景に明るいバー。



@QRCINV0

** 通常のQRバーコードのみを読み取る



@QRCINV1

反転QRバーコードのみを読み取る



@QRCINV2

両方を読み取る

文字エンコード



@QRCENC0

** 初期設定の文字エンコード



@QRCENC1

UTF-8



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

QR ECI出力



@QRCEC10

QR ECI出力を無効にする



@QRCEC11

** QR ECI出力を有効にする



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Micro QRコード

工場出荷時設定の復元



@MQRDEF

Micro QRの工場出荷時設定の復元

Micro QRを有効/無効にする



@MQRENA1

** Micro QRを有効にする



@MQRENA0

Micro QRを無効にする



スキャナーがMicro QRバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Micro QRを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Micro QRの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるMicro QRバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@MQRMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@MQRMAX

最大長の設定（初期設定：35）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのMicro QRバーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。



8～12文字が含まれるMicro QRコードバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Aztec

工場出荷時設定の復元



@AZTDEF

Aztecコードの工場出荷時設定の復元

Aztecコードを有効/無効にする



@AZTENA1

Aztecコードを有効にする



@AZTENA0

** Aztecコードを無効にする



スキャナーがAztecコード バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Aztecコードを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Aztecコードの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるAztecバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@AZTMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@AZTMAX

最大長の設定（初期設定：3832）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのAztecバーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。



8～12文字が含まれるAztecバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

画像の複数バーコードの読み取り

以下の3つのオプションがあります。

[モード1]: 1つのバーコードのみを読み取ります。

[モード2]: 固定数のバーコードのみを読み取ります。

[モード3]: 複合読み取り。最初に固定数のバーコードを読み取ります。失敗した場合は、1つのバーコードのみを読み取ります。



@AZTMOD1

** モード1



@AZTMOD2

モード2



@AZTMOD3

モード3



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

バーコードの数の設定



@AZTMUL1

** 1



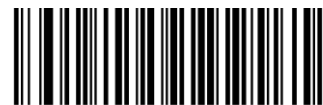
@AZTMUL2

2



@AZTMUL3

3



@AZTMUL4

4



@AZTMUL5

5



@AZTMUL6

6



@AZTMUL7

7



@AZTMUL8

8



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

文字エンコード



@AZTENC0

** 初期設定の文字エンコード



@AZTENC1

UTF-8

Aztec ECI出力



@AZTECI0

Aztec ECI出力を無効にする



@AZTECI1

** Aztec ECI出力を有効にする



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Data Matrix

工場出荷時設定の復元



@DMCDEF

Data Matrixの工場出荷時設定の復元

Data Matrixを有効/無効にする



@DMCENA1

** Data Matrixを有効にする



@DMCENA0

Data Matrixを無効にする



スキャナーがData Matrix/バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Data Matrixを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Data Matrixの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるData Matrix/バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@DMCMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@DMCMAX

最大長の設定（初期設定：3116）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのData Matrixバーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。



8～12文字が含まれるData Matrixバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Data Matrixツイン コード

Data Matrixツイン コードは、縦方向または横方向に並列された2つのData Matrixバーコードです。これらは両方とも通常のバーコードまたは反転したバーコードでなければなりません。両方のバーコードが同様の仕様を持ち、近接して配置されている必要があります。

以下のように、Data Matrixツイン コードを読み取る方法は3つあります。

[シングルData Matrixのみ]：どちらかのData Matrixコードを読み取ります。

[ツインData Matrixのみ]：両方のData Matrixコードを読み取ります。左側（上側）のData Matrixコードの後に右側（下側）のData Matrixコードの順で送信されます。

[シングルとツインの両方]：両方のData Matrixコードを読み取ります。成功した場合は、ツインData Matrixのみとして送信します。それ以外の場合は、シングルData Matrixのみを試します。



@DMCDOU0

** シングルData Matrixのみ



@DMCDOU1

ツインData Matrixのみ



@DMCDOU2

シングルとツインの両方



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

長方形のバーコード

Data Matrixには以下の2つのフォーマットがあります。

長さおよび幅が同じ正方形のバーコード：10 × 10、12 × 12、...、144 × 144。

長さおよび幅が異なる長方形のバーコード：6 × 16、6 × 14、...、14 × 22。



@DMCREC1
** 長方形のバーコードを有効にする



@DMCREC0
長方形のバーコードを無効にする

Data Matrix反転

通常のバーコード：明るい背景に暗いバー。

反転バーコード：暗い背景に明るいバー。



@DMCINV0
** 通常のData Matrixバーコードのみを読み取る



@DMCINV1
反転Data Matrixバーコードのみを読み取る



@DMCINV2
両方を読み取る



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

文字エンコード



@DMCENC0

** 初期設定の文字エンコード



@DMCENC1

UTF-8

Data Matrix ECI出力



@DMCEC10

Data Matrix ECI出力を無効にする



@DMCEC11

** Data Matrix ECI出力を有効にする



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Maxicode

工場出荷時設定の復元



@MXCDEF

Maxicodeの工場出荷時設定の復元

Maxicodeを有効/無効にする



@MXCENA1

Maxicodeを有効にする



@MXCENA0

** Maxicodeを無効にする



スキャナーがMaxicodeバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Maxicodeを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Maxicodeの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるMaxicodeバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@MXCMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@MXCMAX

最大長の設定（初期設定：150）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのMaxicodeバーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。



8～12文字が含まれるMaxicodeバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Chinese Sensible Code

工場出荷時設定の復元



@CSCDEF

Chinese Sensible Codeの工場出荷時設定の復元

Chinese Sensible Codeを有効/無効にする



@CSCENA1

Chinese Sensible Codeを有効にする



@CSCENA0

** Chinese Sensible Codeを無効にする



スキャナーがChinese Sensible Codeバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Chinese Sensible Codeを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Chinese Sensible Codeの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるChinese Sensible Code/バーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@CSCMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@CSCMAX

最大長の設定（初期設定：7827）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのChinese Sensible Code/バーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。



8～12文字が含まれるChinese Sensible Code/バーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Chinese Sensibleツイン コード

Chinese Sensibleツイン コードは、縦方向または横方向に並列された2つのChinese Sensibleバーコードです。これらは両方とも通常のバーコードまたは反転したバーコードでなければなりません。両方のバーコードが同様の仕様を持ち、近接して配置されている必要があります。

以下のように、Chinese Sensibleツイン コードを読み取る方法は3つあります。

[**シングルChinese Sensible Codeのみ**]：どちらかのChinese Sensible Codeを読み取ります。

[**ツインChinese Sensible Codeのみ**]：両方のChinese Sensible Codeを読み取ります。左側（上側）のChinese Sensible Codeの後に右側（下側）のChinese Sensible Codeの順で送信されます。

[**シングルとツインの両方**]：両方のChinese Sensible Codeを読み取ります。成功した場合は、ツインChinese Sensible Codeのみとして送信します。それ以外の場合は、シングルChinese Sensible Codeのみを試します。



@CSCDOU0

** シングルChinese Sensible Codeのみ



@CSCDOU1

ツインChinese Sensible Codeのみ



@CSCDOU2

シングルとツインの両方



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Chinese Sensible Code反転

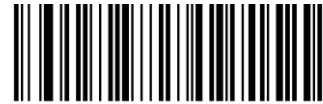
通常のバーコード：明るい背景に暗いバー。

反転バーコード：暗い背景に明るいバー。



@CSCINV0

** 通常のChinese Sensibleバーコードのみを
読み取る



@CSCINV1

反転Chinese Sensibleバーコードのみを
読み取る



@CSCINV2

両方を読み取る



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

GMコード

工場出荷時設定の復元



@GMCDEF
GMの工場出荷時設定の復元

GMを有効/無効にする



@GMCENA1
GMを有効にする



@GMCENA0
** GMを無効にする



スキャナーがGMバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[GMを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

GMの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるGMバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@GMCMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@GMCMAX

最大長の設定（初期設定：2751）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのGMバーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。



8～12文字が含まれるGMバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Code One

工場出荷時設定の復元



@ONEDEF

Code Oneの工場出荷時設定の復元

Code Oneを有効/無効にする



@ONEENA1

Code Oneを有効にする



@ONEENA0

** Code Oneを無効にする



スキャナーがCode Oneバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Code Oneを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Code Oneの長さ範囲の設定

長さが最小長と最大長の間（両端を含む）にあるCode Oneバーコードのみを読み取るようにスキャナーを設定できます。そのためには、最小長および最大長を設定する必要があります。



@ONEMIN

最小長の設定（初期設定：1）



@ONEMAX

最大長の設定（初期設定：3550）



最小長を最大長より大きくすることはできません。特定の長さのCode Oneバーコードのみを読み取りたい場合は、最小長と最大長の両方を目的の長さに設定します。



8～12文字が含まれるCode Oneバーコードを読み取るようにスキャナーを設定します。

1. **【セットアップの開始】**バーコードをスキャンします。
2. **【最小長の設定】**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
5. **【最大長の設定】**バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「1」、「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**【保存】**バーコードをスキャンします。
8. **【セットアップの終了】**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

USPS Postnet

工場出荷時設定の復元



@PNTDEF
USPS Postnetの工場出荷時設定の復元

USPS Postnetを有効/無効にする



@PNTENA1
USPS Postnetを有効にする



@PNTENA0
** USPS Postnetを無効にする

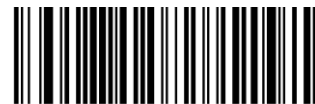


スキャナーがUSPS Postnetバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[USPS Postnetを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。

チェックキャラクタの送信



@PNTCHK1
USPS Postnetのチェックキャラクタを送信しない



@PNTCHK2
** USPS Postnetのチェックキャラクタを送信する



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

USPS Intelligent Mail

工場出荷時設定の復元



@ILGDEF

USPS Intelligent Mailの工場出荷時設定の復元

USPS Intelligent Mailを有効/無効にする



@ILGENA1

USPS Intelligent Mailを有効にする



@ILGENA0

** USPS Intelligent Mailを無効にする



スキャナーがUSPS Intelligent Mailバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[USPS Intelligent Mailを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Royal Mail

工場出荷時設定の復元



@ROYDEF

Royal Mailの工場出荷時設定の復元

Royal Mailを有効/無効にする



@ROYENA1

Royal Mailを有効にする



@ROYENA0

** Royal Mailを無効にする



スキャナーがRoyal Mailバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Royal Mailを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

USPS Planet

工場出荷時設定の復元



@PLADEF

USPS Planetの工場出荷時設定の復元

USPS Planetを有効/無効にする



@PLAENA1

USPS Planetを有効にする



@PLAENA0

** USPS Planetを無効にする



スキャナーがUSPS Planet/バーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[USPS Planetを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。

チェックキャラクタの送信



@PLACHK1

USPS Planetのチェックキャラクタを送信しない



@PLACHK2

** USPS Planetのチェックキャラクタを送信する



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

KIX Post

工場出荷時設定の復元



@KIXDEF

KIX Postの工場出荷時設定の復元

KIX Postを有効/無効にする



@KIXENA1

KIX Postを有効にする



@KIXENA0

** KIX Postを無効にする



スキャナーがKIX Postバーコードの識別に失敗した場合は、【セットアップの開始】バーコード、【KIX Postを有効にする】バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

Australian Postal

工場出荷時設定の復元



@APLDEF

Australian Postalの工場出荷時設定の復元

Australian Postalを有効/無効にする



@APLENA1

Australian Postalを有効にする



@APLENA0

** Australian Postalを無効にする



スキャナーがAustralian Postalバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Australian Postalを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

Specific OCR-B

工場出荷時設定の復元



@SOBDEF
Specific OCR-Bの工場出荷時設定の復元

Specific OCR-Bを有効/無効にする



@SOBENA1
Specific OCR-Bを有効にする



@SOBENA0
** Specific OCR-Bを無効にする



スキャナーがSpecific OCR-Bバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[Specific OCR-Bを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

パスポートOCR

工場出荷時設定の復元



@PASDEF

パスポートOCRの工場出荷時設定の復元

パスポートOCRを有効/無効にする



@PASENA1

パスポートOCRを有効にする



@PASENA0

**パスポートOCRを無効にする



スキャナーがパスポートOCRバーコードの識別に失敗した場合は、[セットアップの開始]バーコード、[パスポートOCRを有効にする]バーコードの順にスキャンしてください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

第6章 データフォーマッター

はじめに

データフォーマッターを使用するとスキャナーの出力を変更できます。たとえば、データフォーマッターを使用すると、バーコードデータのスキャン時にデータ中の特定位置に文字を挿入したり、特定の文字を抑制/置換/送信したりできます。

通常、バーコードをスキャンするとデータが自動的に出力されますが、フォーマットを作成する場合は、フォーマットプログラム内で「送信」コマンド（この章の「送信コマンド」セクションを参照してください）を使用してデータを出力する必要があります。作成されるすべてのデータフォーマット（最大4つのデータフォーマット）の最大サイズは2048文字です。初期設定では、データフォーマッターは無効になっています。必要に応じて有効にしてください。データフォーマットの設定を変更した場合、すべてのフォーマットを消去して工場出荷時の設定に戻すには、下記の[初期設定のデータフォーマット]をスキャンします。



@DFMDEF

初期設定のデータフォーマット

データフォーマットの追加

データフォーマットは、バーコードデータを編集するためにのみ使用されます。最大4つのデータフォーマット（Format_0、Format_1、Format_2、Format_3）をプログラムできます。データフォーマットを作成するときは、データフォーマットのアプリケーションスコープ（バーコードの種類やデータ長など）を指定し、フォーマッターコマンドを含める必要があります。スキャンしたデータがデータフォーマットの要件に一致しない場合は、不一致エラーのピープ音が鳴ります（不一致エラーのピープ音がオンの場合）。

データフォーマットは、バーコードを使用したプログラミングと、HPバーコードスキャナーNシリーズの構成ユーティリティを使用したプログラミングの2つの方法でプログラムできます。

以下では、特定のバーコードをスキャンしてデータフォーマットをプログラムする方法を説明します。関係のないバーコードをスキャンしたり、設定手順に従わなかったりすると、プログラミングが失敗します。データフォーマットの作成に必要な英数字バーコードを見つけるには、付録の「数字バーコード」セクションを参照してください。

手順1：[セットアップの開始]バーコードをスキャンします。

手順2：[データフォーマットの追加]バーコードをスキャンします。



@DFMADD

データフォーマットの追加



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

手順3 : データ フォーマットを選択します。

数字バーコード「0」、「1」、「2」、または「3」をスキャンして、Format_0、Format_1、Format_2、またはFormat_3に設定します。

手順4 : 「6999」をスキャンします。

手順5 : 読み取りコードID番号を設定します。

付録の「読み取りコードID番号」セクションを参照して、データ フォーマットを適用する読み取りコードのID番号を見つけます。読み取りコードID番号の3つの数字バーコードをスキャンします。すべての読み取りコードに対してデータ フォーマットを作成した場合は、「999」をスキャンします。

手順6 : バーコードデータの長さを設定します。

この読み取りコードで許容されるデータの長さを指定します。データ長を表す4つの数字バーコードをスキャンします。9999は、任意の長さを表す汎用の数値です。たとえば、32文字の場合は「0032」と入力します。

手順7 : フォーマッター コマンドを入力します。

この章の「フォーマッター コマンド」セクションを参照してください。データの編集に必要なコマンドを表す英数字バーコードをスキャンします。たとえば、コマンドがF141の場合は「F141」をスキャンします。

手順8 : 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**[保存]**バーコードをスキャンして、データ フォーマットを保存します。

例 : フォーマッター コマンドtype 6、10文字が含まれるCode 128を使用してFormat_0をプログラムし、すべての文字の後に「A」を送信します。

1. **[セットアップの開始]**バーコードをスキャンします。 セットアップモードへの移行
2. **[データフォーマットの追加]**バーコードをスキャンします。 データフォーマットの追加
3. バーコード「0」をスキャンします。 Format_0の選択
4. バーコード「6999」をスキャンします。
5. バーコード「002」をスキャンします。 Code 128のみが該当
6. バーコード「0010」をスキャンします。 10文字の長さのみが該当
7. 英数字バーコード「F141」をスキャンします。 すべての文字の後に「A」（16進値：41）を送信
8. **[保存]**バーコードをスキャンします。 データフォーマットの保存
9. **[セットアップの終了]**バーコードをスキャンします。 セットアップモードの終了

プログラミング プロセスを効率化するために、データ フォーマットの作成に使用されるバッチ コマンド（例：**@DFMADD069990020010F141;**）を入力してバッチ バーコードを生成することもできます。バッチ バーコードを使用する方法については、第9章の「**バッチバーコードの使用**」セクションを参照してください。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

データフォーマッターを有効/無効にする

データフォーマッターを無効にすると、読み取られたバーコード データがプレフィックスおよびサフィックスも含めてそのままホストに出力されます。



@DFMENA0

** データフォーマッターを無効にする

作成したデータフォーマットに従うように要求することもできます。以下の設定をデータフォーマットに適用できます。

[データフォーマッターを有効にする、必須、プレフィックス/サフィックスを保持]：データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、データフォーマットに応じて変更され、プレフィックスおよびサフィックスとともに出力されます（プレフィックスおよびサフィックスが有効な場合）。データがユーザーのデータフォーマットの要件に一致しない場合、エラーのピーブ音が鳴り（不一致エラーのピーブ音がオンの場合）、そのバーコードのデータは送信されません。

[データフォーマッターを有効にする、必須、プレフィックス/サフィックスを破棄]：データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、データフォーマットに応じて変更され、プレフィックスおよびサフィックスなしで出力されます（プレフィックスおよびサフィックスが有効な場合でも）。データがユーザーのデータフォーマットの要件に一致しない場合、エラーのピーブ音が鳴り（不一致エラーのピーブ音がオンの場合）、そのバーコードのデータは送信されません。

[データフォーマッターを有効にする、必須でない、プレフィックス/サフィックスを保持]：データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、データフォーマットに応じて変更され、プレフィックスおよびサフィックスとともに出力されます（プレフィックスおよびサフィックスが有効な場合）。バーコード データがユーザーのデータフォーマットの要件に一致しない場合は、プレフィックスおよびサフィックスとともにそのまま送信されます（プレフィックスおよびサフィックスが有効な場合）。

[データフォーマッターを有効にする、必須でない、プレフィックス/サフィックスを破棄]：データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、データフォーマットに応じて変更され、プレフィックスおよびサフィックスなしで出力されます（プレフィックスおよびサフィックスが有効な場合でも）。バーコード データがユーザーのデータフォーマットの要件に一致しない場合は、プレフィックスおよびサフィックスとともにそのまま送信されます（プレフィックスおよびサフィックスが有効な場合）。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@DFMENA1

データフォーマッターを有効にする、必須、
プレフィックス/サフィックスを保持



@DFMENA2

データフォーマッターを有効にする、必須、
プレフィックス/サフィックスを破棄



@DFMENA3

データフォーマッターを有効にする、必須でない、
プレフィックス/サフィックスを保持



@DFMENA4

データフォーマッターを有効にする、必須でない、
プレフィックス/サフィックスを破棄

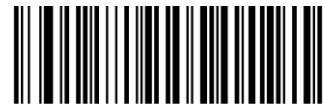
不一致エラーのビープ音

不一致エラーのビープ音がオンになっている場合、必要なデータフォーマットに一致しないバーコードが検出されると、スキャナーはエラーのビープ音を鳴らします。



@DFMTON0

不一致エラーのビープ音オフ



@DFMTON1

** 不一致エラーのビープ音オン



@SETUPE0

**セットアップの終了



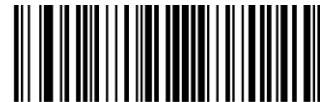
@SETUPE1
セットアップの開始

データフォーマットの選択

データフォーマッターを有効にした後、以下の適切なバーコードをスキャンして、使用するデータフォーマットを選択できます。



@DFMUSE0
** Format_0



@DFMUSE1
Format_1



@DFMUSE2
Format_2



@DFMUSE3
Format_3



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

シングル スキャンのためのデータ フォーマットの変更

シングル スキャンのためにデータ フォーマットを切り替えることができます。ここで選択したデータ フォーマットを使用して次のバーコードをスキャンした後、上で選択したフォーマットに戻ります。

たとえば、Format_3として保存したデータ フォーマットを使用するようにスキャナーを設定しているとします。以下の[シングル スキャン : Format_1]バーコードをスキャンすることにより、トリガーを1回引くだけでFormat_1に切り替えることができます。Format_1を使用して次のバーコードをスキャンした後、Format_3に戻ります。

注：この設定は、スキャナーの電源を切るか、デバイスの電源をオフまたは再起動すると失われます。



@DFMSIN0

シングル スキャン : Format_0



@DFMSIN1

シングル スキャン : Format_1



@DFMSIN2

シングル スキャン : Format_2



@DFMSIN3

シングル スキャン : Format_3



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

データフォーマットの消去

作成したデータフォーマットをスキャナーから削除する方法は、以下のように2つあります。

1つのデータフォーマットを削除：[1つ消去]バーコード、数字バーコード（0～3）、[保存]バーコードの順にスキャンします。たとえば、Format_2を削除するには、[1つ消去]バーコード、[2]バーコード、[保存]バーコードの順にスキャンします。

すべてのデータフォーマットを削除：[すべて消去]バーコードをスキャンします。



@DFMCAL

すべて消去



@DFMCLR

1つ消去

データフォーマットの照会

以下の適切なバーコードをスキャンして、作成したデータフォーマットまたは製造元が事前設定したデータフォーマットの情報を取得できます。たとえば、この章の「データフォーマットの追加」セクションの例に従ってFormat_0を追加し、[現在のデータフォーマットの照会]バーコードをスキャンした場合に得られる結果は、Data Format0:069990020010F141;です。



@DFMQCU

現在のデータフォーマットの照会



@DFMQFA

事前設定されたデータフォーマットの照会



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

フォーマッター コマンド

データ フォーマッターで作業しているときは、仮想カーソルが入力データ文字列に沿って移動します。以下のコマンドは、このカーソルをさまざまな位置に移動し、データを選択、置換、および最終出力に挿入するために使用します。コマンドに含まれるASCII文字の16進値については、付録の「ASCII表」を参照してください。

送信コマンド

F1：すべての文字を送信する

構文は、F1xxです（xx：挿入文字の16進値）。

入力メッセージのうち現在のカーソル位置以降にあるすべての文字を出力メッセージに含め、その後に挿入文字を付加します。

F2：指定の文字数を送信する

構文は、F2nxxです（nn：文字数を表す数値（00～99）。xx：挿入文字の16進値）。

指定した数の文字を出力メッセージに含め、その後に挿入文字を付加します。入力メッセージのうち現在のカーソル位置以降にある「nn」個の文字または最後の文字までが含まれ、その後に「xx」の文字が付加されます。

F2の例：指定の文字数を送信する



上記のバーコードの先頭から10文字にキャリッジリターンを付加したものを送信します。

コマンド文字列：F2100D

F2は「指定の文字数を送信する」コマンドです

10は送信する文字数です

0DはCRの16進値です

出力されるデータ：1234567890

<CR>

F3：特定の文字までの文字をすべて送信する



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

構文は、F3ssxx (ss : 特定の文字の16進値。xx : 挿入文字の16進値)。

入力メッセージのうち現在のカーソル位置から特定の文字「ss」の直前までのすべての文字を出力メッセージに含め、その後に文字「xx」を付加します。カーソルは文字「ss」まで前進します。

F3の例：特定の文字までの文字をすべて送信する



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードのうち「D」の直前までのすべての文字にキャリッジリターンを付加したものを送信します。

コマンド文字列：F3440D

F3は「特定の文字までの文字をすべて送信する」コマンドです

44は「D」の16進値です

0DはCRの16進値です

出力されるデータ：1234567890ABC

<CR>

E9：末尾を除くすべての文字を送信する

構文は、E9nnです (nn : 送信しないメッセージ末尾の文字数を表す数値 (00~99))。

現在のカーソル位置以降にあるすべての文字を、末尾の「nn」個の文字を除いて出力メッセージに含めます。カーソルは、入力メッセージのうち含められた最後の文字を1つ越えた位置に前進します。

F4：文字を複数回挿入する

構文は、F4xxnnです (xx : 挿入文字の16進値。nn : 送信回数を表す数値 (00~99))。

現在のカーソル位置は変更しないで、出力メッセージで文字「xx」を「nn」回送信します。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

E9およびF4の例：末尾を除くすべての文字に2つのタブを付加したものを送信する



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードから末尾の8文字を除いたすべての文字に、2つのタブを付加して送信します。

コマンド文字列：E908F40902

E9は「末尾を除くすべての文字を送信する」コマンドです

08は無視する末尾の文字数です

F4は「文字を複数回挿入する」コマンドです

09は水平タブの16進値です

02はタブ文字を送信する回数です

出力されるデータ：1234567890AB<tab><tab>

B3：読み取りコード名を挿入する

カーソルを動かさずに、出力メッセージにバーコードの読み取りコード名を挿入します。

B4：バーコードの長さを挿入する

カーソルを動かさずに、出力メッセージにバーコードの長さを挿入します。長さは数値文字列として表され、先頭のゼロは含まれません。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

B3およびB4の例：読み取りコード名および長さを挿入する



上記のバーコードのバーコード データの前に読み取りコード名および長さを送信します。これらの挿入はスペースで区切ります。キャリッジリターンで終わります。

コマンド文字列：B3F42001B4F42001F10D

B3は「読み取りコード名を挿入する」コマンドです

F4は「文字を複数回挿入する」コマンドです

20はスペースの16進値です

01はスペース文字を送信する回数です

B4は「バーコードの長さを挿入する」コマンドです

F4は「文字を複数回挿入する」コマンドです

20はスペースの16進値です

01はスペース文字を送信する回数です

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

0DはCRの16進値です

出力されるデータ：Code128 20 1234567890ABCDEFGHIJ

<CR>

移動コマンド

F5：カーソルを指定の文字数だけ前進させる

構文は、F5nnです（nn：カーソルを前進させる文字数を表す数値（00～99））。

カーソルを現在のカーソル位置から「nn」文字数だけ前進させます。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

F5の例：カーソルを前進させ、データを送信する



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードで、カーソルを3文字分前進させてから、残りのバーコード データを送信します。キャリッジ リターンで終わります。

コマンド文字列：**F503F10D**

F5は「カーソルを指定の文字数だけ前進させる」コマンドです

03はカーソルを移動する文字数です

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

0DはCRの16進値です

出力されるデータ：**4567890ABCDEFGHIJ**

<CR>

F6：カーソルを指定の文字数だけ後退させる

構文は、F6nnです（nn：カーソルを後退させる文字数を表す数値（00～99））。

カーソルを現在のカーソル位置から「nn」文字数だけ後退させます。

F7：カーソルを先頭に移動する

構文は、F7です。

カーソルを入力メッセージの最初の文字に移動します。

EA：カーソルを末尾に移動する

構文は、EAです。

カーソルを入力メッセージの最後の文字に移動します。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

検索コマンド

F8 : 文字を前進方向へ検索する

構文は、F8xxです (xx : 検索文字の16進値)。

入力メッセージ内で現在のカーソル位置から前進方向へ文字「xx」を検索します。カーソルは文字「xx」に移動します。

F8の例 : 特定の文字以降のバーコードデータを送信する



バーコード内で文字「D」を検索し、「D」およびそれに続くすべてのデータを送信します。上記のバーコードを使用すると以下のようになります。

コマンド文字列 : **F844F10D**

F8は「文字を前進方向へ検索する」コマンドです

44は「D」の16進値です

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

0DはCRの16進値です

出力されるデータ : **DEFGHIJ**

<CR>

F9 : 文字を後退方向へ検索する

構文は、F9xxです (xx : 検索文字の16進値)。

入力メッセージ内で現在のカーソル位置から後退方向へ文字「xx」を検索します。カーソルは文字「xx」に移動します。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

B0 : 文字列を前進方向へ検索する

構文は、B0nnnnSです (nnnn : 文字列の長さ (最大9999)。S : 文字列内の各文字のASCII 16進値)。

現在のカーソル位置から「S」文字列を前進方向に検索します。カーソルは「S」文字列に移動します。たとえば、B0000454657374は、4文字の文字列「Test」の最初の出現箇所を前進方向に検索します。

B0の例 : 指定の文字列以降のバーコード データを送信する



バーコード内で文字列「FGH」を検索し、「FGH」およびそれに続くすべてのデータを送信します。上記のバーコードを使用すると以下ようになります。

コマンド文字列 : **B00003464748F10D**

B0は「文字列を前進方向へ検索する」コマンドです

0003は文字列の長さです (3文字)

46は「F」の16進値です

47は「G」の16進値です

48は「H」の16進値です

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

0DはCRの16進値です

出力されるデータ : **FGHIJ**

<CR>

B1 : 文字列を後退方向へ検索する

構文は、B1nnnnSです (nnnn : 文字列の長さ (最大9999)。S : 文字列内の各文字のASCII 16進値)。

現在のカーソル位置から「S」文字列を後退方向に検索します。カーソルは「S」文字列に移動します。たとえば、B1000454657374は、4文字の文字列「Test」の最初の出現箇所を後退方向に検索します。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

E6：一致しない文字を前進方向へ検索する

構文は、E6xxです（xx：検索文字の16進値）。

入力メッセージ内で現在のカーソル位置から前進方向へ「xx」以外の最初の文字を検索します。カーソルは「xx」以外の文字に移動します。

E6の例：バーコードデータの先頭の0を削除する



000037692

この例のバーコードは0で埋められています。0を無視して、それより後のすべてのデータを送信することもできます。E6は、0以外の最初の文字を前進方向へ検索し、それより後のすべてのデータにキャリッジ リターンを付加したものを送信します。上記のバーコードを使用すると以下ようになります。

コマンド文字列：E630F10D

E6は「一致しない文字を前進方向へ検索する」コマンドです

30は0の16進値です

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

0DはCRの16進値です

出力されるデータ：37692

<CR>

E7：一致しない文字を後退方向へ検索する

構文は、E7xxです（xx：検索文字の16進値）。

入力メッセージ内で現在のカーソル位置から後退方向へ「xx」以外の最初の文字を検索します。カーソルは「xx」以外の文字に移動します。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

その他のコマンド

FB : 文字を抑制する

構文は、FBnnxyy..zzです (nn : 抑制する文字の数を表す数値 (00~15)。xyy..zz : 抑制する文字の16進値)。

他のコマンドによってカーソルが現在の位置から移動するに従い、最大15種類の文字をすべて抑制します。

FBの例 : バーコードデータ内のスペースを削除する



この例のバーコードにはスペースが含まれています。データを送信する前にスペースを削除することもできます。上記のバーコードを使用すると以下ようになります。

コマンド文字列 : **FB0120F10D**

FBは「文字を抑制する」コマンドです

は抑制する文字の数です

20はスペースの16進値です

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

0DはCRの16進値です

出力されるデータ : **34567890**

<CR>

E4 : 文字を置換する

構文は、E4nnxx₁xx₂yy₁yy₂...zz₁zz₂です (nn : 文字数の合計 (置換される文字および置換文字)。xx₁ : 置換される文字。xx₂ : 置換文字。以下、zz₁およびzz₂まで同様です)。

カーソルは移動しないで、出力メッセージ内の最大15の文字を置換します。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

E4の例：バーコード データ内の0をCRで置換する



1234056780ABC

ホスト アプリケーションにとって不適切な文字がバーコードに含まれている場合は、E4コマンドを使用してそれらを別の文字で置換できます。この例では、上記のバーコード内の0をキャリッジリターンで置換します。

コマンド文字列：E402300DF10D

E4は「文字を置換する」コマンドです

02は、置換する文字と置換文字の合計数です（0をCRで置換するため、文字の合計数は2）

30は0の16進値です

0DはCR（0を置換する文字）の16進値です

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

0DはCRの16進値です

出力されるデータ：1234

5678

ABC

<CR>



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

BA : 文字列を別の文字列に置換する

構文は、BAnnNN₁SS₁NN₂SS₂です。

nn : 実行される置換の回数。nn = 00またはnn>=置換される文字列の出現回数の場合、その文字列がすべて置換されます。

NN₁ : 置換される文字列の長さ。NN₁ > 0。

SS₁ : 置換される文字列内の各文字のASCII 16進値。

NN₂ : 置換文字列の長さ。NN₂ >= 0。文字列「SS₁」をNULで置換する（つまり、文字列「SS₁」を削除する）には、NN₂を00に設定し、SS₂は省略します。

SS₂ : 置換文字列内の各文字のASCII 16進値。

現在のカーソル位置から「SS₁」文字列（長さ「NN₁」）の出現箇所を前進方向に検索し、すべての「SS₁」文字列が置換されるか置換回数が「nn」回に達するまで、出力メッセージ内の文字列を「SS₂」文字列（長さ「NN₂」）に置換します。カーソルは移動しません。

BAの例 : バーコードデータ内の「23」を「ABC」で置換する



cd123abc23bc12ab232

ホスト アプリケーションにとって不適切な文字列がバーコードに含まれている場合は、BAコマンドを使用してそれらを別の文字列で置換できます。この例では、上記のバーコード内の「23」を「ABC」で置換します。

コマンド文字列 : BA0002323303414243F100

BAは「文字列を別の文字列に置換する」コマンドです

00は実行される置換の回数であり、00はその文字列の出現箇所をすべて置換することを意味します

02は置換される文字列の長さです



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

32は2（置換される文字列内の文字）の16進値です

33は3（置換される文字列内の文字）の16進値です

03は置換文字列の長さです

41はA（置換文字列内の文字）の16進値です

42はB（置換文字列内の文字）の16進値です

43はC（置換文字列内の文字）の16進値です

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

00はNULの16進値です

出力されるデータ：`cd1ABCabcABCbc12abABC2`

BAの例：バーコードデータ内で最初に出現する「23」のみを削除する

ホスト アプリケーションにとって不適切な文字列がバーコードに含まれている場合は、BAコマンドを使用してその文字列をNULで置換できます。この例では、上記のバーコード内で最初に出現した「23」を削除します。

コマンド文字列：`BA0102323300F100`

BAは「文字列を別の文字列に置換する」コマンドです

01は実行される置換の回数です

02は置換される文字列の長さです

32は2（置換される文字列内の文字）の16進値です

33は3（置換される文字列内の文字）の16進値です

00は置換文字列の長さで、00は置換される文字列をNULで置換することを意味します

F1は「すべての文字を送信する」コマンドです

00はNULの16進値です

出力されるデータ：`cd1abc23bc12ab232`



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

EF：遅延を挿入する

構文は、EFnnnnです（nnnn：5ミリ秒刻みの遅延、最大9999）。

現在のカーソル位置から、最大49,995ミリ秒（5の倍数）の遅延を挿入します。このコマンドはUSB HIDキーボードでのみ使用できます。

EFの例：5番目と6番目の文字の間に1秒の遅延を挿入する

バーコードの最初の5文字を送信し、1秒間待ってから残りのバーコードデータを送信します。

コマンド文字列：**F20500EF0200E900**

F2は「指定の文字数を送信する」コマンドです

05は送信する文字数です

00はNULL文字の16進値です

EFは「遅延を挿入する」コマンドです

0200は遅延値です（5ミリ秒 × 200 = 1000ミリ秒 = 1秒）

E9は「末尾を除くすべての文字を送信する」コマンドです

00は送信しないメッセージ末尾の文字数です



@SETUPE0

**セットアップの終了



B5 : キー操作を挿入する

構文は、B5nnssxxです (nn : 押されるキーの数 (キーモディファイアを除く)。ss : 下の表のキーモディファイア。xx : 付録の「Unicodeキー マップ」のキー番号)。

1つのキー操作またはキー操作の組み合わせを挿入します。キー操作はキーボードによって異なります (付録の「Unicodeキー マップ」を参照してください)。このコマンドはUSB HIDキーボードでのみ使用できます。

キーモディファイア	
キーモディファイアなし	00
左Shiftキー	01
右Shiftキー	02
左Altキー	04
右Altキー	08
左Ctrlキー	10
右Ctrlキー	20

たとえば、B501001Fは米国式キーボードで「a」を挿入します。B5はコマンド、01は押されるキーの数 (キーモディファイアを除く)、00はキーモディファイアなし、1Fは「a」キーです。「A」を挿入する場合は、B501011FまたはB501021Fを入力します。

2回のキー操作がある場合、構文は1回のキー操作のB5nnssxxからB5nnssxxssxxに変わります。「aA」を挿入する例は、B502001F011Fです。

注 : 必要に応じて複数のキーモディファイアを同時に追加できます。例 : 左Shiftキー + 左Altキー + 左Ctrlキー = 15。





@SETUPE1

セットアップの開始

第7章 プレフィックスおよびサフィックス

はじめに

1Dバーコードには、数字、文字、記号などを含めることができます。2Dバーコードには、漢字やその他のマルチバイト文字など、より多くのデータを含めることができます。ただし、実際の用途では、バーコードを短く柔軟にするために、バーコードの種類、データ取得時間、区切り文字など、必要な情報がすべて含まれているわけではありません。

プレフィックスおよびサフィックスは、上記の要件を満たすための方法です。これにより、元のバーコード データを変更しないで追加、削除、変更できます。



バーコードの処理手順は以下のとおりです。

1. データフォーマッターでデータを編集します
2. プレフィックス/サフィックスを追加します
3. データをパックします
4. 終了文字を追加します



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

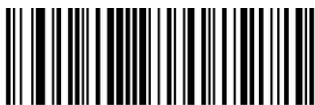
セットアップの開始

グローバル設定

すべてのプレフィックス/サフィックスを有効/無効にする

[すべてのプレフィックス/サフィックスを無効にする]: プレフィックス/サフィックスなしでバーコードデータを送信します。

[すべてのプレフィックス/サフィックスを有効にする]: コードIDプレフィックス、AIM IDプレフィックス、カスタム プレフィックス/サフィックス、および終了文字をバーコード データに追加してから送信できます。



@APSENA0

** すべてのプレフィックス/サフィックスを
無効にする



@APSENA1

すべてのプレフィックス/サフィックスを
有効にする

プレフィックスの順序



@PRESEQ0

** コードID + カスタム + AIM ID



@PRESEQ1

カスタム + コードID + AIM ID



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

カスタム プレフィックス

カスタム プレフィックスを有効/無効にする

カスタム プレフィックスが有効になっている場合、10文字以内のユーザー定義プレフィックスをデータに追加できます。たとえば、カスタム プレフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、ホストは「AB123」を受信します。



@CPRENA0

** カスタム プレフィックスを無効にする



@CPRENA1

カスタム プレフィックスを有効にする

カスタム プレフィックスの設定

カスタム プレフィックスを設定するには、**[カスタム プレフィックスの設定]**バーコード、目的のプレフィックスの16進値に対応する数字バーコード、**[保存]**バーコードの順にスキャンします。

注：カスタム プレフィックスは10文字以内に行ってください。



@CPRSET

カスタム プレフィックスの設定

E
example

カスタム プレフィックスを「CODE」（16進値：0x43/0x4F/0x44/0x45）に設定します。

1. **[セットアップの開始]**バーコードをスキャンします。
2. **[カスタム プレフィックスの設定]**バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**[保存]**バーコードをスキャンします。
5. **[カスタム プレフィックスを有効にする]**バーコードをスキャンします。
6. **[セットアップの終了]**バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

AIM IDプレフィックス

AIM (Automatic Identification Manufacturers) IDは読み取りコード識別子を定義します (詳しくは、付録の「AIM ID表」セクションを参照してください)。AIM IDプレフィックスが有効になっている場合、スキャナーは読み取り後のスキャンデータの前に読み取りコード識別子を追加します。



@AIDENA0

** AIM IDプレフィックスを無効にする



@AIDENA1

AIM IDプレフィックスを有効にする



AIM IDはユーザーがプログラム可能ではありません。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

コードIDプレフィックス

コードIDはバーコードの種類を識別するために使用することもできます。AIM IDとは異なり、コードIDはユーザーがプログラムできません。コードIDは、1文字または2文字の半角英字のみで構成できます。



@CIDENA0

** コードIDプレフィックスを無効にする



@CIDENA1

コードIDプレフィックスを有効にする

すべての初期設定コードIDの復元

初期設定のコードIDについて詳しくは、付録の「コードID表」セクションを参照してください。



@CIDDEF

すべての初期設定コードIDの復元

コードIDの変更

コードIDを変更したり、すべての読み取りコードの初期設定コードIDを復元したりする方法については、以下の例を参照してください。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

E *sample*

PDF417のコードIDを「p」（16進値：0x70）に変更します。

1. [セットアップの開始]バーコードをスキャンします。
2. [PDF417のコードIDの変更]バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「7」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**[保存]**バーコードをスキャンします。
5. [セットアップの終了]バーコードをスキャンします。

すべての読み取りコードの初期設定コードIDを復元します。

1. [セットアップの開始]バーコードをスキャンします。
2. [すべての初期設定コードIDの復元]バーコードをスキャンします。
3. [セットアップの終了]バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

1D読み取りコード：



@CID002

Code 128のコードIDの変更



@CID003

GS1-128のコードIDの変更



@CID004

EAN-8のコードIDの変更



@CID005

EAN-13のコードIDの変更



@CID006

UPC-EのコードIDの変更



@CID007

UPC-AのコードIDの変更



@CID008

Interleaved 2 of 5のコードIDの変更



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@CID009

ITF-14のコードIDの変更



@CID010

ITF-6のコードIDの変更



@CID011

Matrix 2 of 5のコードIDの変更



@CID013

Code 39のコードIDの変更



@CID015

CodabarのコードIDの変更



@CID017

Code 93のコードIDの変更



@CID019

China Post 25のコードIDの変更



@CID020

AIM 128のコードIDの変更



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@CID021

ISBT 128のコードIDの変更



@CID023

ISSNのコードIDの変更



@CID024

ISBNのコードIDの変更



@CID025

Industrial 25のコードIDの変更



@CID026

Standard 25のコードIDの変更



@CID027

PlesseyのコードIDの変更



@CID028

Code 11のコードIDの変更



@CID029

MSI-PlesseyのコードIDの変更



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@CID030

GS1コンボジットのコードIDの変更



@CID031

GS1 DatabarのコードIDの変更



@CID132

Code 49のコードIDの変更



@CID133

Code 16KのコードIDの変更



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

2D読み取りコード：



@CID032

PDF417のコードIDの変更



@CID033

QRのコードIDの変更



@CID034

AztecのコードIDの変更



@CID035

Data MatrixのコードIDの変更



@CID036

MaxicodeのコードIDの変更



@CID039

Chinese SensibleのコードIDの変更



@CID041

GMのコードIDの変更



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@CID042

Micro PDF417のコードIDの変更



@CID043

Micro QRのコードIDの変更



@CID048

Code OneのコードIDの変更



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

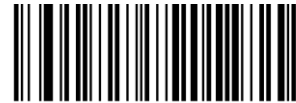
セットアップの開始

郵便読み取りコード:



@CID096

USPS PostnetのコードIDの変更



@CID097

USPS Intelligent MailのコードIDの変更



@CID098

Royal MailのコードIDの変更



@CID099

USPS PlanetのコードIDの変更



@CID100

KIX PostのコードIDの変更



@CID101

Australian PostalのコードIDの変更



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1
セットアップの開始

カスタム サフィックス

カスタム サフィックスを有効/無効にする

カスタム サフィックスが有効になっている場合、10文字以内のユーザー定義サフィックスをデータに追加できます。たとえば、カスタムサフィックスが「AB」で、バーコードデータが「123」の場合、ホストは「123AB」を受信します。



@CSUENA0
** カスタム サフィックスを無効にする



@CSUENA1
カスタム サフィックスを有効にする

カスタム サフィックスの設定

カスタム サフィックスを設定するには、[カスタム サフィックスの設定]バーコード、目的のサフィックスの16進値に対応する数字バーコード、[保存]バーコードの順にスキャンします。

注：カスタム サフィックスは10文字以内にしてください。



@CSUSET
カスタム サフィックスの設定

Example

カスタム サフィックスを「CODE」（16進値：0x43/0x4F/0x44/0x45）に設定します。

1. [セットアップの開始]バーコードをスキャンします。
2. [カスタム サフィックスの設定]バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「4」、「3」、「4」、「F」、「4」、「4」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから[保存]バーコードをスキャンします。
5. [カスタム サフィックスを有効にする]バーコードをスキャンします。
6. [セットアップの終了]バーコードをスキャンします。



@SETUPE0
** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

データ パッキング

はじめに

データ パッキングは、送信前にデータをパッキングしたい特定のユーザー グループ向けに設計されています。データ パッキングはデータ フォーマットに影響するため、この機能が不要な場合は無効にすることをおすすめします。

データ パッキングのオプション

[データ パッキングを無効にする]：読み取ったデータを未加工のフォーマットで送信します（パケット化されません）。

[データ パッキングを有効にする、フォーマット1]：読み取ったデータを、以下で定義されるパケット フォーマット1で送信します。

パケット フォーマット1：[STX + ATTR + LEN] + [AL_TYPE + DATA] + [LRC]

STX：0x02

ATTR：0x00

LEN：バーコードデータの長さは、0x0000 (0) ~ 0xFFFF (65535) の2バイトで表されます

AL_TYPE：0x36

DATA：未加工のバーコードデータ

LRC：チェック デジット

LRC計算アルゴリズム：計算シーケンス：0xFF + LEN + AL_TYPE + DATA。計算方法はバイトごとのXORです

[データ パッキングを有効にする、フォーマット2]：読み取ったデータを、以下で定義されるパケット フォーマット2で送信します。

パケット フォーマット2：[STX + ATTR + LEN] + [AL_TYPE] + [Symbology_ID + DATA] + [LRC]

STX：0x02

ATTR：0x00

LEN：バーコードデータの長さは、0x0000 (0) ~ 0xFFFF (65535) の2バイトで表されます

AL_TYPE：0x3B

Symbology_ID：読み取りコードのID番号、1バイト

DATA：未加工のバーコードデータ

LRC：チェック デジット

LRC計算アルゴリズム：計算シーケンス：0xFF + LEN + AL_TYPE + Symbology_ID + DATA。計算方法はバイトごとのXORです。



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始



@PACKAG0

** データ パッキングを無効にする



@PACKAG1

データ パッキングを有効にする、フォーマット1



@PACKAG2

データ パッキングを有効にする、フォーマット2



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

終了文字サフィックス

終了文字サフィックスを有効/無効にする

キャリッジ リターン (CR) やキャリッジ リターン/ライン フィードのペア (CRLF) などの終了文字は、データの終わりを示すためにのみ使用できます。つまり、終了文字の後には何も追加できません。



@TSUENA0

** 終了文字サフィックスを無効にする



@TSUENA1

終了文字サフィックスを有効にする

終了文字サフィックスの設定

終了文字サフィックスを設定するには、[終了文字サフィックスの設定]バーコード、目的の終了文字の16進値に対応する数字バーコード、[保存]バーコードの順にスキャンします。

注：終了文字サフィックスは2文字以内にしてください。



@TSUSET

終了文字サフィックスの設定



@TSUSET0D

** 終了文字をCR (0x0D) に設定する



@TSUSET0D0A

終了文字をCRLF (0x0D、0x0A) に設定する



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

E *sample*

終了文字サフィックスを0x0Aに設定します。

1. [セットアップの開始]バーコードをスキャンします。
2. [終了文字サフィックスの設定]バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数字バーコード」セクションから数字バーコード「0」、「A」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/キャンセル」セクションから**[保存]**バーコードをスキャンします。
5. [終了文字サフィックスを有効にする]バーコードをスキャンします。
6. [セットアップの終了]バーコードをスキャンします。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

第8章 バッチ プログラミング

はじめに

バッチプログラミングにより、ユーザーはひとまとまりのコマンドを単一のバッチバーコードに統合できます。以下に、バッチプログラミングのルールを示します。

1. コマンド形式：コマンド+パラメーター値。
2. 各コマンドはセミコロン (;) で終了します。コマンドと末尾のセミコロンの間にはスペースがないことに注意してください。
3. バーコードジェネレーターソフトウェアを使用して、2Dバッチバーコードを生成します。

例：[照明オン] (コマンド：ILLSCN1)、[検知モード] (コマンド：SCNMOD2)、[デコードセッションタイムアウト] = 2秒 (コマンド：ORTSET2000)、[Interleaved 2 of 5を無効にする] (コマンド：I25ENA0) のバッチバーコードを作成します。

1. 以下のコマンドを入力します。

```
@ILLSCN1;SCNMOD2;ORTSET2000;I25ENA0;
```

注：「@」は、スキャナーの電源を切ったり再起動したりしても失われない恒久的な設定を意味します。

2. バッチバーコードを生成します。

上記の設定でスキャナーをセットアップする場合は、[バッチバーコードを有効にする]バーコード、生成されたバッチバーコードの順にスキャンします。



@BATCHS

バッチバーコードを有効にする



@SETUPE0

**セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

バッチ コマンドの作成

バッチ コマンドには、セミコロン (;) で終了する個別のコマンドをいくつか含めることができます。詳しくは、第3章の「プログラミング コマンドの使用」セクションを参照してください。

バッチ バーコードの作成

バッチ バーコードは、PDF417、QRコード、またはData Matrixのフォーマットで作成できます。

例：[照明オン]、[検知モード]、[デコード セッション タイムアウト] = 2秒、および[Interleaved 2 of 5を無効にする]のバッチ バーコードを作成します。

1. 以下のコマンドを入力します。

```
@ILLSCN1;SCNMOD2;ORTSET2000;I25ENA0;
```

2. PDF417のバッチ バーコードを生成します。



@SETUPE0

** セットアップの終了



@SETUPE1

セットアップの開始

バッチ バーコードの使用

バッチ バーコードを使用するには、以下のバーコードをスキャンします（上記の例を使用してください）。



@SETUPE1

セットアップの開始



@BATCHS

バッチ バーコードを有効にする



バッチ バーコード



@SETUPE0

セットアップの終了



@SETUPE0

**セットアップの終了

付録

数字バーコード

0~9





@DIGIT6

6



@DIGIT7

7



@DIGIT8

8



@DIGIT9

9

A~F



バーコードの保存/キャンセル

数字バーコードを読み取った後、**【保存】**バーコードをスキャンしてデータを保存する必要があります。間違った数字をスキャンした場合は、**【キャンセル】**バーコードをスキャンして設定をやり直すか、**【最後の数字の削除】**バーコードをスキャンしてから正しい数字をスキャンするか、**【すべての数字の削除】**バーコードをスキャンしてから目的の数字をスキャンします。

たとえば、**【最大長】**バーコードおよび数字バーコード「1」、「2」、「3」を読み取った場合、次にスキャンするバーコードに応じて以下のように動作します。

- ◇ **【最後の数字の削除】**：最後の数字「3」が削除されます。
- ◇ **【すべての数字の削除】**：すべての数字「123」が削除されます。
- ◇ **【キャンセル】**：最大長の設定がキャンセルされます。スキャナーはセットアップモードのままです。



@DIGSAV

保存



@DIGCAN

キャンセル



@DIGDEL

最後の数字の削除



@DIGDAL

すべての数字の削除

工場出荷時設定表

パラメーター	工場出荷時設定	備考
システム設定		
バーコードプログラミング	無効 (セットアップの終了)	
プログラミングバーコードデータ	送信しない	
照明	オン	
照準	オン	
読み取り成功LED	オン	
読み取り成功LEDの持続時間	短 (20ミリ秒)	
電源投入時のビープ音	オン	
読み取り成功ビープ音	オン	
読み取り成功ビープ音の持続時間	中 (80ミリ秒)	
読み取り成功ビープ音の周波数	中 (2730 Hz)	
読み取り成功ビープ音の音量	大音量	
スキャンモード	レベルモード	
デコードセッションタイムアウト	3,000ミリ秒	1 ~ 3,600,000ミリ秒。0 : 無限
画像安定化タイムアウト (検知モード)	200ミリ秒	0 ~ 3,000ミリ秒
デコード間のタイムアウト (同じバーコード)	無効	
	1,500ミリ秒	1 ~ 3,600,000ミリ秒
画像デコードタイムアウト	500ミリ秒	1 ~ 3,000ミリ秒
感度	中感度	
トリガー コマンド	無効	
バーコードの読み取り	オン	
読み取り領域	領域全体の読み取り	
読み取り領域の指定	上部40%、下部60%、左側40%、右側60%	
画像のフリップ	フリップしない	
スマート スタンドモード	オン	
異常読み取りメッセージ	オフ	
	NG	1 ~ 7文字
初期設定のインターフェイス	USB HIDキーボード	
USBインターフェイス		
USB国別キーボード	USキーボード	USB HIDキーボード
不明な文字でビープ音を鳴らす	オフ	USB HIDキーボード
ALT + テンキーのエミュレート	オフ	USB HIDキーボード
コード ページ	コード ページ1252 (西ヨーロッパ ラテン)	USB HIDキーボード
Unicodeエンコード	オフ	USB HIDキーボード

パラメーター	工場出荷時設定	備考
先頭にゼロを埋めてテンキーをエミュレート	オフ	USB HIDキーボード
ファンクションキー マッピング	無効	USB HIDキーボード
キーストローク間の遅延	遅延なし	USB HIDキーボード
Caps Lock	オフ	USB HIDキーボード
大文字/小文字変換	大/小文字変換なし	USB HIDキーボード
テンキーをエミュレートする1	オフ	USB HIDキーボード
テンキーをエミュレートする2	オフ	USB HIDキーボード
高速モード	オフ	USB HIDキーボード
ポーリングレート	4ミリ秒	USB HIDキーボード
読み取りコード		
グローバル設定		
1Dツインコード	シングル1Dコードのみ	
Code 128		
Code 128	有効	
最大長	48	
最小長	1	
EAN-8		
EAN-8	有効	
チェックキャラクタ	送信する	
2桁のアドオンコード	無効	
5桁のアドオンコード	無効	
EAN-8をEAN-13に変換する	無効	
EAN-13		
EAN-13	有効	
チェックキャラクタ	送信する	
2桁のアドオンコード	無効	
5桁のアドオンコード	無効	
UPC-E		
UPC-E0	有効	
UPC-E1	無効	
チェックキャラクタ	送信する	
2桁のアドオンコード	無効	
5桁のアドオンコード	無効	
プリアンブル文字の送信	システム キャラクター	
UPC-EをUPC-Aに変換する	無効	

パラメーター	工場出荷時設定	備考
UPC-A		
UPC-A	有効	
チェックキャラクタ	送信する	
2桁のアドオンコード	無効	
5桁のアドオンコード	無効	
プリアンブル文字の送信	プリアンブルなし	
クーポン		
拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13	オフ	
クーポンGS1 DataBar出力	オフ	
Interleaved 2 of 5		
Interleaved 2 of 5	有効	
最大長	80	
最小長	6	4以上
チェックキャラクタの検証	無効	
ITF-14		
ITF-14	無効	
ITF-6		
ITF-6	無効	
Matrix 2 of 5		
Matrix 2 of 5	有効	
最大長	80	
最小長	4	4以上
チェックキャラクタの検証	無効	
Code 39		
Code 39	有効	
最大長	48	
最小長	1	
チェックキャラクタの検証	無効	
スタート/ストップキャラクター	送信しない	
Code 39 Full ASCII	無効	
Code 32 Pharmaceutical (PARAF)	無効	
Code 32のプレフィックス	無効	
Code 32のスタート/ストップキャラクター	送信しない	
Code 32のチェックキャラクタ	送信しない	

パラメーター	工場出荷時設定	備考
Codabar		
Codabar	有効	
最大長	60	
最小長	2	
チェックキャラクタの検証	無効	
スタート/ストップキャラクター	送信しない	
	ABCD/ABCD	
Code 93		
Code 93	無効	
最大長	48	
最小長	1	
チェックキャラクタの検証	確認後にチェックキャラクタを送信しない	
China Post 25		
China Post 25	無効	
最大長	48	
最小長	1	1以上
チェックキャラクタの検証	無効	
GS1-128 (UCC/EAN-128)		
GS1-128	有効	
最大長	48	
最小長	1	
GS1 Databar		
GS1 Databar	有効	
アプリケーション識別子「01」	送信する	
EAN・UCCコンボジット		
GS1コンボジット	無効	
UPC/EANコンボジット	無効	
Code 11		
Code 11	無効	
最大長	48	
最小長	4	4以上
チェックキャラクタの検証	1桁のチェックキャラクタ、MOD11	
チェックキャラクタ	送信する	
ISBN		
ISBN	無効	
ISBNフォーマットの設定	ISBN-10	

パラメーター	工場出荷時設定	備考
ISSN		
ISSN	無効	
Industrial 25		
Industrial 25	無効	
最大長	48	
最小長	6	4以上
チェックキャラクタの検証	無効	
Standard 25		
Standard 25	無効	
最大長	48	
最小長	6	4以上
チェックキャラクタの検証	無効	
Plessey		
Plessey	無効	
最大長	48	
最小長	4	4以上
チェックキャラクタの検証	無効	
MSI-Plessey		
MSI-Plessey	無効	
最大長	48	
最小長	4	4以上
チェックキャラクタの検証	1桁のチェックキャラクタ、MOD10	
チェックキャラクタ	送信する	
AIM 128		
AIM 128	無効	
最大長	48	
最小長	1	
ISBT 128		
ISBT 128	無効	
Code 49		
Code 49	無効	
最大長	80	
最小長	1	
Code 16K		
Code 16K	無効	
最大長	80	
最小長	1	

パラメーター	工場出荷時設定	備考
PDF417		
PDF417	有効	
最大長	2710	
最小長	1	
PDF417ツイン コード	シングルPDF417のみ	
PDF417反転	通常のPDF417バーコードのみを読み取る	
文字エンコード	初期設定の文字エンコード	
PDF417 ECI出力	有効	
Micro PDF417		
Micro PDF417	無効	
最大長	366	
最小長	1	
QRコード		
QRコード	有効	
最大長	7089	
最小長	1	
QRツイン コード	シングルQRのみ	
QR反転	通常のQRバーコードのみを読み取る	
文字エンコード	初期設定の文字エンコード	
QR ECI出力	有効	
Micro QRコード		
Micro QR	有効	
最大長	35	
最小長	1	
Aztec		
Aztecコード	無効	
最大長	3832	
最小長	1	
画像の複数バーコードの読み取り	モード1	
文字エンコード	初期設定の文字エンコード	
Aztec ECI出力	有効	

パラメーター	工場出荷時設定	備考
Data Matrix		
Data Matrix	有効	
最大長	3116	
最小長	1	
Data Matrixツイン コード	シングルData Matrixのみ	
長方形のバーコード	有効	
Data Matrix反転	通常のData Matrixバーコードのみを読み取る	
文字エンコード	初期設定の文字エンコード	
Data Matrix ECI出力	有効	
Maxicode		
Maxicode	無効	
最大長	150	
最小長	1	
Chinese Sensible Code		
Chinese Sensible Code	無効	
最大長	7827	
最小長	1	
Chinese Sensibleツイン コード	シングルChinese Sensible Codeのみ	
Chinese Sensible Code反転	通常のChinese Sensibleバーコードのみを読み取る	
GMコード		
GM	無効	
最大長	2571	
最小長	1	
Code One		
Code One	無効	
最大長	3550	
最小長	1	
<i>USPS Postnet</i>		
USPS Postnet	無効	
チェックキャラクタ	送信する	
USPS Intelligent Mail		
USPS Intelligent Mail	無効	
Royal Mail		
Royal Mail	無効	
USPS Planet		
USPS Planet	無効	
チェックキャラクタ	送信する	

パラメーター	工場出荷時設定	備考
KIX Post		
KIX Post	無効	
Australian Postal		
Australian Postal	無効	
Specific OCR-B		
Specific OCR-B	無効	
パスポートOCR		
パスポートOCR	無効	
データフォーマッター		
データフォーマッター	無効	
不一致エラーのビープ音	オン	
データフォーマットの選択	Format_0	
プレフィックスおよびサフィックス		
すべてのプレフィックス/サフィックス	無効	
プレフィックスの順序	コードID + カスタム + AIM ID	
カスタム プレフィックス	無効	
AIM IDプレフィックス	無効	
コードIDプレフィックス	無効	
カスタム サフィックス	無効	
データパッキング	データパッキングを無効にする	
終了文字サフィックス	無効 CR (0x0D)	

AIM ID表

読み取りコード	AIM ID	使用できるAIM ID修飾文字 (m)
Code128]C0	
GS1-128 (UCC/EAN-128)]C1	
EAN-8]E4	
アドオン付きEAN-8]E3	
EAN-13]E0	
アドオン付きEAN-13]E3	
UPC-E]E0	
アドオン付きUPC-E]E3	
UPC-A]E0	
アドオン付きUPC-A]E3	
Interleaved 2 of 5]Im	0、1、3
ITF-14]Im	1、3
ITF-6]Im	1、3
Matrix 2 of 5]X0	
Code 39]Am	0、1、3、4、5、7
Codabar]Fm	0、2、4
Code 93]G0	
China Post 25]X0	
AIM 128]C2	
ISBT 128]C4	
ISSN]X0	
ISBN]X0	
Industrial 25]S0	
Standard 25]R0	
Plessey]P0	
Code 11]Hm	0、1、3
MSI Plessey]Mm	0、1
GS1 コンボジット]em	0~3
GS1 Databar (RSS)]e0	
Code 49]T0	
Code 16K]K0	

読み取りコード	AIM ID	使用できるAIM ID修飾文字 (m)
PDF417]Lm	0 ~ 2
QRコード]Qm	0 ~ 6
Aztec]zm	0 ~ 9、A ~ C
Data Matrix]dm	0 ~ 6
Maxicode]Um	0 ~ 3
Chinese Sensible Code]X0	
GM]gm	(0 ~ 9)
Micro PDF417]L0	
Micro QR]Q1	
Code One]X0	
USPS Postnet]X0	
USPS Intelligent Mail]X0	
Royal Mail]X0	
USPS Planet]X0	
KIX Post]X0	
Australian Postal]X0	
Specific OCR-B]o2	
パスポートOCR]o2	

注：「m」はAIM修飾文字を表します。AIM修飾文字について詳しくは、ISO/IEC 15424:2008『Information technology – Automatic identification and data capture techniques – Data Carrier Identifiers (including Symbology Identifiers)』を参照してください。

コードID表

読み取りコード	コードID
Code128	j
GS1-128 (UCC/EAN-128)	j
EAN-8	d
EAN-13	d
UPC-E	c
UPC-A	c
Interleaved 2 of 5	e
ITF-14	e
ITF-6	e
Matrix 2 of 5	v
Code 39	b
Codabar	a
Code 93	i
China Post 25	X
AIM 128	X
ISBT 128	X
ISSN	g
ISBN	B
Industrial 25	l
Standard 25	f
Plessey	n
Code 11	H
MSI Plessey	m
GS1コンボジット	y
GS1 Databar (RSS)	R
Code 49	X
Code 16K	X
PDF417	r
QRコード*	s
Aztec	z
Data Matrix	u

読み取りコード	コードID
MaxiCode	x
Chinese Sensible Code	h
GMコード	x
Micro PDF417	R
Micro QR	X
Code One	X
USPS Postnet	P
USPS Intelligent Mail	M
Royal Mail	x
USPS Planet	L
KIX Post	K
Australian Postal	A
Specific OCR-B	S
パスポートOCR	0

読み取りコードID番号

読み取りコード	ID番号
Code 128	002
GS1-128 (UCC/EAN-128)	003
EAN-8	004
EAN-13	005
UPC-E	006
UPC-A	007
Interleaved 2 of 5	008
ITF-14	009
ITF-6	010
Matrix 2 of 5	011
Code 39	013
Codabar	015
Code 93	017
China Post 25	019
AIM 128	020
ISBT 128	021
ISSN	023
ISBN	024
Industrial25	025
Standard25	026
Plessey	027
Code11	028
MSI-Plessey	029
GS1コンボジット	030
GS1 Databar (RSS)	031
PDF417	032
QRコード	033
Aztec	034
Data Matrix	035
Maxicode	036
Chinese Sensible Code	039

読み取りコード	ID番号
GMコード	040
Micro PDF417	042
Micro QR	043
Code One	048
Specific OCR-B	064
パスポートOCR	066
USPS Postnet	096
USPS Intelligent Mail	097
Royal Mail	098
USPS Planet	099
KIX Post	100
Australian Postal	101

ASCII表

16進	10進	文字
00	0	NUL (NULL文字)
01	1	SOH (ヘッダーの開始)
02	2	STX (テキストの開始)
03	3	ETX (テキストの終わり)
04	4	EOT (送信の終わり)
05	5	ENQ (問い合わせ)
06	6	ACK (確認応答)
07	7	BEL (ベル)
08	8	BS (バックスペース)
09	9	HT (水平タブ)
0a	10	LF (ラインフィード)
0b	11	VT (垂直タブ)
0c	12	FF (フォームフィード)
0d	13	CR (キャリッジリターン)
0e	14	SO (シフトアウト)
0f	15	SI (シフトイン)
10	16	DLE (データリンクエスケープ)
11	17	DC1 (XON) (デバイス制御1)
12	18	DC2 (デバイス制御2)
13	19	DC3 (XOFF) (デバイス制御3)
14	20	DC4 (デバイス制御4)
15	21	NAK (否定応答)
16	22	SYN (同期アイドル)
17	23	ETB (トランスブロックの終わり)
18	24	CAN (キャンセル)
19	25	EM (媒体終端)
1a	26	SUB (置換)
1b	27	ESC (エスケープ)
1c	28	FS (ファイル区切り)
1d	29	GS (グループ区切り)

16進	10進	文字
1e	30	RS (送信要求)
1f	31	US (送信要求)
20	32	SP (スペース)
21	33	! (感嘆符)
22	34	" (二重引用符)
23	35	# (シャープ記号)
24	36	\$ (ドル記号)
25	37	% (パーセント)
26	38	& (アンパサンド)
27	39	` (一重引用符)
28	40	((左丸かっこ)
29	41) (右丸かっこ)
2a	42	* (アスタリスク)
2b	43	+ (プラス)
2c	44	, (コンマ)
2d	45	- (マイナス/ダッシュ)
2e	46	. (ピリオド)
2f	47	/ (スラッシュ)
30	48	0
31	49	1
32	50	2
33	51	3
34	52	4
35	53	5
36	54	6
37	55	7
38	56	8
39	57	9
3a	58	: (コロンの)
3b	59	; (セミコロン)
3c	60	< (より小)
3d	61	= (等号)

16進	10進	文字
3e	62	> (より大)
3f	63	? (疑問符)
40	64	@ (アットマーク)
41	65	A
42	66	B
43	67	C
44	68	D
45	69	E
46	70	F
47	71	G
48	72	H
49	73	I
4a	74	J
4b	75	K
4c	76	L
4d	77	M
4e	78	N
4f	79	O
50	80	P
51	81	Q
52	82	R
53	83	S
54	84	T
55	85	U
56	86	V
57	87	W
58	88	X
59	89	Y
5a	90	Z
5b	91	[(左角かっこ)
5c	92	\ (バックスラッシュ)
5d	93] (右角かっこ)

16進	10進	文字
5e	94	^ (キャレット/曲折アクセント)
5f	95	_ (アンダースコア)
60	96	' (グレイブアクセント)
61	97	a
62	98	b
63	99	c
64	100	d
65	101	e
66	102	f
67	103	g
68	104	h
69	105	i
6a	106	j
6b	107	k
6c	108	l
6d	109	m
6e	110	n
6f	111	o
70	112	p
71	113	q
72	114	r
73	115	s
74	116	t
75	117	u
76	118	v
77	119	w
78	120	x
79	121	y
7a	122	z
7b	123	{ (左波かっこ)
7c	124	(縦線)
7d	125	} (右波かっこ)
7e	126	~ (チルダ)
7f	127	DEL (削除)

Unicodeキー マップ

A diagram of a 104-key US keyboard layout. The keys are arranged in a standard QWERTY pattern. The top row includes keys for 6E, 70-77, 78-7B, 7C-7E, and three dots. The second row has 01-0F, 4B-55, 5A-69. The third row has 10-1D, 4C-56, 5B-65, and 6A. The fourth row has 1E-2B, 5C-66, and 6C. The fifth row has 2C-39, 53, 5D-67, and 6C. The bottom row has 3A-40, 4F-59, 63-68, and 6C. The right side of the keyboard (keys 4B-69) is shaded in light orange.

104キー-米国式キーボード

A diagram of a 105-key European keyboard layout. The keys are arranged in a standard QWERTY pattern. The top row includes keys for 6E, 70-77, 78-7B, 7C-7E, and three dots. The second row has 01-0F, 4B-55, 5A-69. The third row has 10-2B, 4C-56, 5B-65, and 6A. The fourth row has 1E-1D, 5C-66, and 6C. The fifth row has 2C-39, 53, 5D-67, and 6C. The bottom row has 3A-40, 4F-59, 63-68, and 6C. The right side of the keyboard (keys 4B-69) is shaded in light orange.

105キー-欧州式キーボード